

## 和仏法律学校講義録

塚田, 達二郎 / 松岡, 義正 / 島田, 鐵吉 / 松浦, 鎮次郎

---

(出版者 / Publisher)

法政大學

(巻 / Volume)

1

(号 / Number)

特別法

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

51

(発行年 / Year)

1903-04-01



(明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可 毎月廿一日 三日 五日 六日 八日 十日 十二日 十三日 十五日 十六日 十八日 廿一日 廿三日 廿五日 廿六日 廿七日 廿八日 廿九日 至 卅一日發行)

明治三十六年四月一日發行

三十六年度 特別法ノ一

明

和佛法律學子講義錄

第八拾六號

完

和佛法律學校

特別法第一號目次

府	縣	市制	町制	村制	戶籍	供託	人事訴訟手續法
		制(自一)	制(自一)	制(自一)	法(五六)	法(自四)	法(自一)
		法學士 松浦鎮次郎	法學士 松浦鎮次郎	法學士 松浦鎮次郎	法學士 島田鐵吉	法學士 塚田達二郎	法學士 松岡義正

雜報 ○特別法講義錄○合名會社ノ支店ノ營業稅附加稅○兄弟姉妹

090  
1903  
5-1

府縣制

府縣制ハ一般ノ地方公共事務ヲ行フ最良ノ地方團體タル府縣ノ組織ニ其活動ニ關スル原則ヲ規定セルモノナリ近世諸國ニ於テ一般ノ地方公共事務ヲ行フ所ノ自治體ヲ設クルニ當リテハ國ノ行政區畫ヲ以テ直ニ之ヲ團體ノ區域トナスヲ常トス此原則ハ市町村郡府縣ヲ通シテ莫ナルコトナシ故ニ單ニ府縣トイフトキハ自治體ヲ行使スル人格者ヲ意味スルト同時ニ亦國家ノ官廳タル府縣知事ノ管轄ニ屬スル行政區畫ヲ意味スルモノナリ如斯ク自治體タルト同時ニ一ノ行政區畫タルノ點ニ至テハ府縣ニ郡モ市町村村モ決シテ相異ナリ

緒言

府縣制ハ一般ノ地方公共事務ヲ行フ最良ノ地方團體タル府縣ノ組織ニ其活動ニ關スル原則ヲ規定セルモノナリ近世諸國ニ於テ一般ノ地方公共事務ヲ行フ所ノ自治體ヲ設クルニ當リテハ國ノ行政區畫ヲ以テ直ニ之ヲ團體ノ區域トナスヲ常トス此原則ハ市町村郡府縣ヲ通シテ莫ナルコトナシ故ニ單ニ府縣トイフトキハ自治體ヲ行使スル人格者ヲ意味スルト同時ニ亦國家ノ官廳タル府縣知事ノ管轄ニ屬スル行政區畫ヲ意味スルモノナリ如斯ク自治體タルト同時ニ一ノ行政區畫タルノ點ニ至テハ府縣ニ郡モ市町村村モ決シテ相異ナリ

加藤 謙

トナシト雖モ唯此處ニ一ノ注意ヲ要スヘキ點アリ彼ノ市町村ハ如キル最下級ノ自治團體ニシテ其事務モ亦專ラ市町村住民ノ利益ニ關スルモ止マテ直チニ國家全般ノ利害ニ影響スル所少キカ故ニ最廣潤ナル自治權ヲ有シ其行政機關タル市町村長ハ公選ノ方法ニ依レル純然タル市町村ノ機關タリ從テ此等ノ者カ法律勅令ノ定ムル所ニ依リ國家ノ機關タル資格ヲ以テ國家ノ行政ヲ行フ場合ニ於テモ決シテ市町村ノ機關タル市町村長ト別箇ノ身分ヲ有スルニ至ルニ非ス此場合ニ於テモ或點ニ付テハ猶市制町村制ノ規定ノ支離ヲ受ケルモノナリ如斯クナルカ故ニ市町村制ヲ説クニ當リテハ勢亦市町村長カ國家ノ機關トシテ行動スル關係即チ換言スレハ市町村長ノ管轄ニ屬スル行政區畫タル市町村ノ關係ヲモ説明スルノ必要アリトイフコトヲ得然ルニ之ニ反シテ府縣ハ最高級ノ自治團體ニシテ其事務ハ固ヨリ主トシテ地方住民ノ利益ニ關スルモノタルニハ相違ナシト雖然モ團體ノ大ナル丈ケ其實質ノ及ホス影響ノ大ナル丈ケ國家全般ノ利害ニ關係ヲ及ホスコト多キカ故ニ國家ハ之ニ對シテハ市町村等ニ對スルヨリモ多ク官治ノ分子ヲ交ヘテ自治權ノ範圍ヲ制限シ以テ國家全

般ノ利益ニ對スル萬一ノ障害ヲ避ケルノ要アリ從テ其行政機關ノ如キモ市町村ニ於ケルカ如ク公選ノ特別機關ヲ用キスシテ國家ノ官廳タル府縣知事ヲ以テ其位之ニ充ツルノ主義ヲ採レリ如斯クナルカ故ニ府縣知事カ自治體タル府縣ノ行政ヲ行フニ當リテハ固ヨリ府縣制ノ規定ニ依リテ行動スヘキモノナリト雖行政區畫タル府縣ノ長官トシテ行動スル場合ニ純然タル國家ノ官廳トシテ地方官官制其他ノ規定ニ從フコトヲ要スルノミニシテ尠モ府縣制ナル法律ノ支配ヲ受ケルモノニ非ス從テ府縣制ヲ説クニ當リテハ府縣知事カ國家ノ機關トシテ行動スル場合即チ換言スレハ府縣知事ノ管轄ニ屬スル行政區畫タル府縣ノ關係ハ別ニ之ヲ解說スルノ要ヲ見タルナリ故ニ吾人ハ此處ニ自治體トシテノ府縣ノ關係ヲ説クニ止メントス

### 第一章 府縣ノ成立及廢合

府縣ハ自治體ニシテ即チ國家ノ機關トシテ國家ノ事務タル地方公共事務ヲ行フコトヲ目的トスルモノナルカ故ニ其成立及廢止ノ如キ一ニ國家ノ行為ニ依



ラサルヲ得ス府縣ヲ成立セシムル國家行爲ノ第一ハ一級ニ府縣ナル自治體ヲ認メ其組織並ニ活動ニ關スル原則ヲ定ムルモノ是ナリ第二ハ右ノ原則ニ從ヒテ活動スヘキ箇箇ノ府縣團體ヲ成立セシムルモノ是ナリ第一ノ行爲ハ多數ノ場合ニ通スル一般ノ法則ヲ設クルモノナルカ故ニ法規ヲ要スレトモ第二ノ行爲ハ唯此法則ノ支配ヲ受ケテ存續スヘキ箇箇ノ府縣團體ヲ一度生レ出テシムル目的ヲ有スルノミニシテ全ク一箇ノ事件ニ關スル行政行爲ナカ故ニ法律命令等法規ノ形式ヲ以テ之ヲ爲スノ要ナシ次ニ已ニ存在スル箇箇ノ府縣團體ヲ廢止スル國家行爲モ箇箇ノ府縣ヲ成立セシムル行爲ト同シク性質上一箇ノ行政行爲ニ屬スルヲ以テ此レ亦法規ノ形式ヲ要スルモノニ非ス如斯ク箇箇ノ府縣ノ成立廢止ハ其ニ法理上法規ヲ要スルモノニ非スト雖府縣ノ如キ大ナル自治體ノ存廢ハ事體頗ル重大ナルカ故ニ我國ニ於テハ府縣制ナル法律ヲ以テ一般ニ府縣團體ノ組織並ニ活動ニ關スル原則ヲ定ムルト同時ニ此法律ヲ施行スルコトニ依リテ初メテ箇箇ノ府縣團體ヲ成立セシメ(府縣制一三七)又甲ノ府縣ヲ割キテ乙丙ノ二府縣トナシ甲乙ノ二府縣ヲ併セテ丙ノ一府縣ヲ設ケ若ク

市制町村制

法學士 松浦鎮次郎 講述

緒言

吾人ノ今ヨリ研究セントスル所ノ市制及町村制ナルモノハ今日行政上最重要ナル關係ニ立ツ所ノ市及町村ノ組織並ニ其活動ニ關スル原則ヲ規定セルモノナリ元來市ト町村トハ其機關ノ組織及其他ノ點ニ於テ稍其趣ヲ異ニスル所ナキニ非スト雖然モ此二者ハ行政上全ク同一ノ地位ヲ有シ相並ヒテ地方制度ノ根底ヲ成スモノナルカ故ニ市制ト町村制トハ其大部分ニ於テ全ク其規定ヲ同クシ又假令其規定自身ニ於テ多少ノ差異アリトスルモ多クハ其精神ヲ同クスルモノナリ故ニ市町村ニ關スル法制ヲ研究セントスル者ハ市ト町村トヲ分離

スルコトナク相併セテ之ヲ見ルヲ便利トスルニテハ、市町村ハ行政上ニ様ノ地位ヲ有スルモノナリ一ハ人格ヲ有シ自治權ヲ行使スル團體トシテ市町村是ナリ一ハ市町村長カ國ノ行政並ニ府縣郡ノ行政ヲ施行スル行政區畫トシテ市町村是ナリ故ニ吾人ハ先ツ自治權ノ主體タル市町村ヲ研究シ之ヲ了リタル後行政區畫タル市町村ニ論及セントス

### 第一章 自治體タル市町村

#### 第一節 總說

市町村ハ一面ニ於テハ人格ヲ有シ自治權ヲ行使スル團體ナリ故ニ市町村ノ何者タルヤヲ知ラント欲スレハ先ツ自治ノ何者タルヤヲ知ラサルヘカラス自治トハ何ソヤ  
凡ソ國家カ統治ヲ行フニ當リテハ種種ノ關係ヲ設ケテ之ニ一定ノ範圍ノ事務ヲ分配シ其範圍内ニ於テ外部ニ對シテ國家ノ意思ヲ施行セシムルヲ常トス例ヘハ司法裁判所ヲ設ケテ民事刑事ノ裁判ヲ掌ラシメ行政裁判所ヲ設ケテ行政

處分ノ取消變更ヲ求ムル訴訟ヲ判決セシメ各省大臣ヲ置キテ軍事教育勸業土木交通外交等ノ各事項ニ關シ全國ニ通スル行政事務ヲ掌ラシメ府縣知事郡長ヲ置キテ一地方ニ限レル一般ノ行政事務ヲ掌ラシムルカ如キ皆是ナリ而シテ此等ノ國家機關カ國家ヨリ分配セラレタル一定ノ範圍内ノ事務ヲ行フハ唯國家ノ利益ノ爲メニ行動シ國家ノ目的ヲ達スルカ爲メニ國家ノ意思ヲ作ルモノタルニ過キスシテ決シテ自己ノ目的ヲ達シ自己ノ利益ヲ圖ルカ爲メニ行動スルノ主旨ヲ有スルモノニ非ス故ニ此等ノ機關カ其事務ヲ行フハ唯權限トシテ之ヲ爲スノミ自己ノ權利トシテ之ヲ爲スニ非ス即チ此等ノ者ハ權利ノ主體トシテ人格ヲ有スルモノニ非サルナリ勿論機關ヲ組織スル一箇人ハ國家ニ對シ其機關トシテ行動スルノ權利ヲ主張シ得ルコトアリト雖此レ其一箇人ニ屬スル權利タルニ過キスシテ機關其者ニ屬スル權利ナリト誤解スヘカラス如斯ク人格ヲ有セサル國家機關ヲ稱シテ之ヲ官廳ト謂ヒ國家カ官廳ニ依リテ其統治ヲ行フコトヲ稱シテ之ヲ官治ト謂フ而シテ國家カ已ニ存在スル以上ハ官治ノ方法ヲ以テ統治權ヲ行使スルノ必要アルハ固ヨリ論ヲ待タズト雖然モ官治ハ

國家カ統治權ヲ行使スル唯一ノ方法ニハ非ズ國家事業中例ヘハ外交軍事裁判等ノ如ク其利害ノ關係カ直チニ全國一般ニ亘リ若クハ其性質上全國ヲ統一シテ之ヲ行フコトヲ要スルモノニ在リテハ官治ニ依ルル外途ナカルヘシト雖事業ノ性質上主トシテ國內各地方人民ノ公共ノ利益ニ關スルモノニシテ地方ノ情況ノ異ナルニ從ヒ適宜之ヲ施行スルノ要アリ且之カ爲メニ國家全般ノ利害ニ影響ヲ及ホスコト甚少キモノニ在リテハ其地方ニ居住シ若クハ之ニ重要ナル關係ヲ有シ國家ノ地方の事務ニ由リテ直接ニ一身ノ利害ヲ感スルコト深キ者ヲシテ其政務ニ參與セシメ自己ノ事務トシテ自己ノ負擔ヲ以テ之ヲ爲サシムルノ方法ヲ探ルトキハ彼ノ單ニ國家ノ機關トシテ行動スルニ止マリ地方公共ノ利益ニ直接利害ヲ感スルコトナキ官廳ヲシテ之ヲ爲サシムルヨリモ遙ニ適實深切ニシテ且經濟的ナル行政ヲ爲シ得ヘキハ何人モ疑ヲ容レタル所ナリ近世ニ於ケル自治ノ概念ノ根底ハ實ニ此處ニ在リテ存ス然レトモ一地方ノ人民ヲシテ悉ク自己ノ事務トシテ國家事務ヲ行ハシムルコトハ爲シ能ハサル所ナルカ故ニ勢國家ハ法規ノ力ヲ以テ其地方ノ人民ヨリ成立セシメ團體ヲ設ケ之

ラシテ自己ノ事務トシテ自己ノ負擔ヲ以テ地方公共ノ事務ヲ行ハシメ而シテ其地方ノ人民ヲシテ一面團體ノ機關トナリ若クハ機關ノ組織ニ參與スルト同時ニ一面團體ノ經費ヲ負擔セシメ以テ彼等ヲシテ間接ニ自己ノ事務トシテ自己ノ負擔ヲ以テ地方公共事務ヲ行フノ實ヲ舉ゲシムルノ外ナキナリ何レノ國ニ於テモ地方公共事務ヲ行フ團體ニ在リテハ其地方ノ人民ヲシテ之カ政務ニ參與セシムルヲ常トス彼ノ普通西國ノ私領區ニ於テ區會等ノ設ナク私領區長カ單獨ニ其政務ヲ行フカ如キハ眞ニ特例タリ私領區長トハ普通西國ニ於ケル封建時代ノ領主ノ變形物ナリ同國ニ於テハ封建制ヨリ郡縣制ニ移ルニ當リ我國維新ノ際ノ如ク根底ヨリ封建制度ヲ破壞スル能ハスシテ各地ニ割據セル領主ノ手ヨリ悉ク其政權ヲ奪フコト能ハサリシカハ彼等ノ或者ハ依然トシテ自己ノ領内ニ於テ政權ヲ行ヒ裁判ノ如キモ自ラ之ヲ行ヒタリ近時ニ至リ裁判權ノミハ漸ク之ヲ國家ノ手ニ收メタルモ行政權ハ猶彼等ノ手ニ在リ市町村自治ノ制ヲ布クニ及ヒテモ私領區ナルモノハ市町村ノ區域外ニ立テ舊領主ハ其所領ノ地主タルト同時ニ私領區長トシテ町村長ト同一ノ職務ヲ行フコトナレ

ルナリ)如斯クニシテ作ラレタル團體ハ國家ノ事務タル地方公共ノ事務ヲ行フコトヲ以テ自己ノ存立ノ目的トナセル一箇ノ人格者ナリ從テ其事務ヲ行フハ國家ノ機關トシテ之ヲ爲スト同時ニ亦自己ノ利益ノ爲メニ自己ノ權利トシテ之ヲ爲スモノナリ國家ノ事務ヲ自己ノ事務トシテ行フノ權利ハ公法上ノ權利ナリ公法上ノ權利ノ主體ナルカ故ニ此等ノ團體ハ之ヲ公法人ト稱ス而シテ公法人タルノ事業ヲ行フカ爲メニハ財產ヲ所有スルノ必要モアルヘク又私法上ノ法律行為ヲ行フノ必要モアルヘシ故ニ此等ノ團體ハ其公法人タルノ結果トシテ當然又私法上ノ人格ヲ有スルモノナリ此等ノ點ニ於テハ前ニ述ヘタル官廳ト大ニ其趣ヲ異ニス如キ團體ヲ稱シテ之ヲ自治體ト謂ヒ國家カ此等ノ團體ニ依リテ統治ヲ行フコトヲ稱シテ之ヲ自治ト謂フ自治ハ近世諸國ノ制度ニ於テ自治ト相對シテ行政上頗ル重要ナル位階ニ立タルモノナリ

自治ノ意義ハ右ニ述フル所ノ如シ故ニ市町村ハ自治體ナリトイフトキハ其國家ノ事務タル地方公共事務ヲ自己ノ權利トシテ行フ所ノ團體ナルコトヲ知ルヲ得ヘシ然レトモ如キ團體ハ必スシモ市町村ニ限ルニ非ス府縣ノ如キ郡ノ

如キ水利組合ノ如キ町村學校組合ノ如キ皆然ラザルハナシ從テ市町村ハ自治體ナリトイフニミテハ他ノ自治體ト區別シテ市町村ノ性質ヲ明ニスルニ足ラス之ヲ爲スニハ猶他ノ標準ヲ求メサルヘカラス自治體ニハ或ハ法規ニ依リテ特ニ限定セラレタル地方公共事務ヲ行フコトヲ目的トスルモノアリ或ハ特ニ法規ニ依リテ制限セラレタル限ハ廣ク一般ノ地方公共事務ヲ行フコトヲ目的トスルモノアリ前者ヲ特別ノ自治體ト謂ヒ後者ヲ普通ノ自治體ト謂フ水利組合ノ如キハ唯水利土木ニ關スル事務ノミヲ行フ普通水利組合ハ用排水等專ラ土地保護ニ關スル事業ヲ爲スヲ目的トシ水害豫防組合ハ水害防禦ノ爲メニスル堤防浚渫砂防等ノ工事ヲ爲スヲ目的トス(モノナルカ故ニ前者ニ屬シ町村學校組合ノ如キモ專ラ學校ノ設立維持ニ關スル事務ノミヲ行フモノナルカ故ニ亦前者ニ屬ス府縣郡市町村ノ如キハ之ニ反シテ其事務ニ關シテニ限定セラレル所ナキカ故ニ後者ニ屬ス自治體ニハ又唯其團體員ニ對シテノミ其權利ヲ行使シ得ルモノアリ或ハ一種ノ領土權ヲ有シ其領域内ニ在ル者ニハ其團體員タルト否トヲ問ハス之ニ對シテ行政權ヲ行使スルヲ得ルモノアリ前者ヲ公共



明治四年四月四日布告戸籍法明治十九年内務省令第十九號及ヒ同年内務省令第二十二號以上三法令ヲ寄留ニ關スル規定ヲ除外其現行戸籍法ニ關係スル條目ハ重複スル他ノ法令ニ現行戸籍法施行ノ日ヨリ廢止スルハタリ戸籍法第三十二條第一項

(二)戸籍法ノ内容 戸籍法ハ身分登記ニ關スル規定ト戸籍ニ關スル規定トヨリ成ル故ニ戸籍法ハ身分登記ト戸籍トニ關スル法律ナリ

身分登記ト戸籍トノ意義ヲ説明センスルニ當リテハ身分ノ意義ヨリ始メケルヘカラス因リテ予ハ先ツ身分ノ意義ヲ説明シ然ル後テ身分登記及ヒ戸籍ノ意義ニ及ハント欲ス

第一 身分 身分ナル文字ハ我國ノ法令及ヒ慣例ニ於テ種種ナル意義ニ用キラレ或ハ族稱華族士族平民ヲ指スモトアリ或ハ人ノ法律上ノ地位夫妻父子官吏公吏等ヲ指スコトアリ此ノ如ク其意義一定セスト雖之ヲ要スルニ多年前ニ公布セラレタル法令ニ在リテハ多ク族稱ヲ意義シ近年ノ公布ニ係ル法令ニ在リテハ多ク人ノ法律上ノ地位ヲ意義ス民法及ヒ戸籍法ニ於ケル身分

ナル文字モ亦後ケノ意義ヲ有スルモノナリ

入ノ法律上ノ地位トハ法令ノ規定及ヒ慣習ニ依リ當然一定ノ公法上及ハ私法上ノ權利ヲ有シ義務ヲ負フトコトヲ資格ヲ云フ故ニ身分ハ一定ノ權利義務ノ集合體ニアラスシテ當然一定ノ權利義務カ附随スル法律上ノ地位タリ

(注意) 戸主タル地位ニ在ル者ハ其地位ニ在ルコトニ因リテ家族ニ對シ當然一定ノ權利義務ヲ有シ夫タル地位ニ在ル者ハ其地位ニ在ルコトニ因リテ妻ニ對シ當然一定ノ權利義務ヲ有ス故ニ戸主タル地位又ハ夫タル地位ハ就レモ一ノ身分ナリ

身分ハ人カ充スヘキ一ツ法律上ノ地位タリ故ニ人タルコト自體ハ身分ニアラス

身分ノ得失ハ自然ノ事實ニ因ルコトアリ例ヘハ出生ニ因ル子タル身分ノ取得法給シ規定ニ因ルコトアリ例ヘハ外國人ト婚姻ヲ爲シタル日本ノ女子ハ國籍法ノ規定ニ因リテ日本人タル身分ヲ失フカ如キ是ナリ國家ノ機關ヲ行爲スルコトアリ例ヘハ裁判士トシ難婚私人ノ行爲トシ國家ノ機關ヲ行爲スルコト



ルコトアリ例ハ私人カ爲ストコノ婚姻ニ届出ト其届出ニ對スル戸籍寬  
 ノ受理トニ因リテ届出人タル私人カ夫婦タル身分ヲ取得スルカ如キ是ナリ  
 尙ホ身分得喪ノ原因ニ付キテ詳細ハ第二編ニ於テ各種ノ身分登記ヲ説明  
 スルトキニ譲ル  
 身分ニ附随スル權利義務ハ之ヲ身分上ノ權利義務ト謂フヲ通例トス身分上  
 ノ權利義務ハ常ニ必ス其身分ニ伴フ故ニ身分上ノ權利義務ハ人カ其身分ヲ  
 取得スルコトニ因リテ當然之ヲ取得シ其身分ヲ失フコトニ因リテ當然之ヲ  
 喪失ス而シテ其權利義務ハ公法上ノモノナルコトアリ又私法上ノモノナル  
 コトアリ例ハ戸主カ家族ノ出生ヲ届出ツル義務戸第七一條第三項ハ公法  
 上ノ義務ニ屬シ夫カ妻ヲ同居セシムル權利民法第七八九條ハ私法上ノ權利  
 ニ屬スルカ如キ是ナリ  
 財產權其他ノ或私權ハ權利者任意ニ之ヲ處分スルコトヲ得ルヲ原則トスル  
 ニ反シ身分上ノ權利ハ假令私權ナル場合ト雖任意ニ之ヲ處分スルコトヲ得  
 ナルヲ原則トス例ハ夫カ妻ヲ同居セシムル權利ハ夫之ヲ實行セザルコト

ヲ妨ケスト雖之ヲ讓渡シ又ハ拋棄スルコトヲ得タルカ如キ是ナリ此ノ如ク  
 身分上ノ權利ノ處分ヲ禁スルハ其權利ハ其身分ヨリ分離スルコトヲ許サレ  
 ナルカ故ニシテ之カ分離ヲ許ササルハ身分ハ公ノ秩序ニ關スル事項ナルカ  
 故ナリ

第二 身分登記 身分登記トハ身分登記簿ニ於ケル身分ニ關スル法定事項出

生死亡婚姻其他戸籍法ニ規定シタル登記スヘキ事項ノ登錄ヲ謂フ  
 身分登記ハ身分ニ關スル事項ヲ公證スル爲メニ設ケラレタル制度ナリ身分  
 登記ハ身分ノ得喪變更ニ付キテ必要ニアル又身分ノ得喪變更ニ付キ第  
 三者ニ對抗スル效力ヲ生セシムル爲メノ要件ニモアル

(注意) (1) 身分ハ各般ノ法律關係ニ重大ナル影響ヲ及ホスモノナリ故ニ國

家ハ本人ノ權利ヲ確實ナラシメ且公衆ヲシテ各人ノ身分ニ關スル事項ヲ  
 知ルコトヲ得セシムルコトハ公ノ秩序ヲ維持スルニ必要ナリト認メ身分  
 登記ナル制度ヲ設ケタルモノナリ  
 (2) 身分登記ハ届出ノ受理等ニ依リテ國家カ身分ニ關シ公認シタル事項ヲ



附則六 凡屬之再新定之戸籍簿ニ於テ身分登記ハ公正ノ證書ヲ取ルニ依リテ行ハルベシ  
ルモノモ之ヲ附テ登記セザル事項ヲ手ハント欲スル者ハ反證ヲ舉グル  
在アラズ

(ハ) 婚姻協議上ノ離婚等ハ届出シ覺悟ニ因リテ效力ヲ生ズルニシテ身  
分登記ヲ失テテ效力ヲ生ズルモノニテアラザル故ニ此種ノ事項ニ關スル  
身分登記ハ其届出ノ受理ニ因リテ效力ヲ生ズタル事項ヲ登錄スルモノト  
ルニ止マル又出生死亡等ノ身分登記ハ既ニ發生シタル事實ヲ登錄スルモ  
ノニシテ身分登記ナキトキト雖出生又ハ死亡モナラザルモノト看做サル  
ニアラス之ヲ要スルニ身分登記ハ身分ニ關シ既ニ發生シタル事項ヲ公證  
スル爲メノ制度ニ過キサル事ナリ  
之ニ反シテ不動産ニ關スル登記ハ不動産ニ關スル物權ノ得喪變更ニ付キ  
第三者ニ對抗スル效力ヲ生ゼシムル爲メニ之ヲ爲スモノナル故ニ身  
分登記ト不動産ニ關スル登記トハ其主義ヲ異ニスルモノトス

第三 戸籍 戸籍トハ日本人カ組成セタル一戸ニ對シテ其戸主及シテ家族ノ

本籍地ニ於ケル關係及シ親族關係ヲ記載シタルモノニシテ戸籍簿ノ一部  
トナルモノヲ稱ス

(注意) 戸籍ハ一月毎ニ一本ヲ作ル(戸第一七五條)モノニシテ之ヲ編綴シタ  
ルモノヲ戸籍簿ト謂フ(戸第一七一條第一項)

日本人ニアラザレハ日本國土内ニ本籍ヲ定ムルコトヲ得ス而シテ戸籍ハ

戸籍吏ノ管轄地内ニ本籍ヲ定メタル者ニ付キ之ヲ編製スルモノトス(戸第

一七〇條)

本籍ハ日本人ノ本籍地ヲ明確ニシ且ツ日本人ノ其家ニ於ケル關係及シ親族

關係ヲ明カニスル爲メニ設ケラレタル制度ナリ(戸第一七一條)

(注意) 本籍地ニ關スル身分登記ナキカ故ニ本籍地ハ身分登記以外ニ於テ

之ヲ明確ニスル必要アリ

之ニ反シテ家ニ於ケル關係及シ親族關係ニ付キテハ身分登記ニ依リテ

モ身分登記ヨリ各別ノ用紙ニ之ヲ爲スルベシ(戸第一七六條)其種

類ニ依リテ異ナルモノニ登記簿ニ之ヲ記載スルヲ以テ附屬等ノ場合ニハ不

便少ナカク其故ニ國家ノ行政其他ノ目的ヲ達シ(徵兵選給者ヲ取調アルコト警察上ノ目的ヲ達スルコト等)如キヲ云フ且テ公衆ニ便利ヲ與フル爲メ容易ニ各戸ノ戸主及ヒ家族ノ身分ヲ知ルルコトヲ得ル機轉ヲ設クルノ必要アリ

(三)戸籍法ノ編別 戸籍法ハ第一章戸籍吏及ヒ戸籍役場第二章身分登記簿第三章登記手續第四章身分ニ關スル届出第五章戸籍簿第六章戸籍ノ記載手續第七章戸籍ニ關スル届出第八章抗告第九章罰則ノ九章ト附則トニ編別セラル而シテ其第一章第八章第九章及ヒ附則ハ身分登記ト戸籍トニ通スル法則ニシテ第二章乃至第四章ハ身分登記ニ又第五章乃至第七章ハ戸籍ニ特別ナル法則トシテ之ヲ入ルモノトスルニシテ(四)戸籍法ノ規定ノ性質 戸籍法ハ公法ノ一種ニシテ其規定ハ届出ノ義務等ニ關スル實體法ノ規定ト身分登記及ヒ戸籍ニ關スル手續上ノ規定トニ之ヲ類別スルコトヲ得

### 第二章 身分登記及ヒ戸籍ニ關スル事務

ニ關スルカ故ニ戸籍法ヲ以テ民法ノ附屬法ナリトイフヲ通則トス  
(一)事務ノ性質 身分登記及ヒ戸籍ニ關スル各箇ノ事務ニ付キテハ第二編及ヒ第三編ニ於テ之ヲ説明スヘク本章ニ於テハ身分登記及ヒ戸籍ニ關スル總論ノ事務ニ通スル性質ノ大要ヲ説明セントス  
身分登記及ヒ戸籍ニ關スル事務ハ私權ノ保護ト公ノ秩序ノ維持トヲ目的トスルモノニシテ國權行使ノ形式ノ一種タル行政ニ屬ス  
行政ヲ國家ノ行政ト自治體ノ行政トニ分類スルトキハ身分登記及ヒ戸籍ニ關スル事務ハ國家ノ行政ナリ何トナレハ此事務ヲ自治體ノ事務ト爲ストノ法規ヲケレハナリ  
身分登記及ヒ戸籍ニ關スル事務ハ市町村長ノ職ニ在ル者カ戸籍吏トシテ之ヲ掌管スルヲ通則トス然レトモ市町村長ノ職ニ在ル者ハ市町村ナル自治體ノ事務トシテ之ヲ掌管スルニアラスシテ戸籍吏タル資格ニ於テ國家ノ事務トシテ

戸籍法 總論 身分登記及戸籍ニ關スル事務ヲ行フ機關  
之ヲ管掌スルモノナリ

### 第三章 身分登記及戸籍ニ關スル事務ヲ行フ機關

(六)事務ヲ取扱フ機關 身分登記及ヒ戸籍ニ關スル事務ハ(五)ニ説明シタル如ク國家ノ行政事務ナルカ故ニ之ヲ取扱フ機關ハ國家ノ行政機關ナリ  
身分登記及ヒ戸籍ニ關スル事務ヲ取扱フ機關ハ之ヲ別テ二種ト爲ス戸籍吏及ヒ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者はナリ戸籍吏ニ付キテハ(七)ニ於テ又戸籍吏ノ職務ヲ行フ者ニ付キテハ(八)ニ於テ之ヲ説明スヘシ

(七)戸籍吏 戸籍吏ハ身分登記及ヒ戸籍ニ關スル事務ヲ管掌ス戸第一條ル機關ニシテ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者カ取扱フヘキ特別ノ場合ヲ除クノ外總テノ事務ヲ取扱フモノトス而シテ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者カ取扱フヘキ事務ハ戸籍吏之ヲ取扱フコトヲ得ス

戸籍吏ノ地位ヲ充ス者ハ其地位ヲ充シタル原因ニ由リ之ヲ分類シテ二種ト爲スコトヲ得

第一 戸籍法ノ規定ニ依リ當然戸籍吏タル者 市町村長戸第二條又市町村長ヲ置カタル地ニ於テハ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員戸第二條第一項即チ是ナリ此等ノ者ハ戸籍法ノ規定ニ依リ當然戸籍吏ノ地位ヲ充スモノナリ

第二 司法大臣カ戸籍吏ト爲シタル者 區ヲ置キタル市ニ在リテハ區長ヲ以テ戸籍吏ニ充ツルコトヲ得ルハ戸籍法第二條但書ノ規定スル所ナリ而シテ司法大臣ハ此規定ニ依リ明治三十一年七月司法省令第十二號ヲ以テ東京、京都及ヒ大阪ノ三市ノ各區長ヲ其區ノ戸籍吏ト爲シタリ區長ヲ以テ戸籍吏ニ充テタル場合ニ在リテハ其市ノ市長ハ戸籍吏ニアラス

(八)戸籍吏ノ職務ヲ行フ者 戸籍吏ノ職務ヲ行フ者トハ特別ノ場合ニ限り身分登記及ヒ戸籍ニ關スル事務ヲ取扱フ者ヲ云フ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者ハ場合ニ依リ異ナル即チ左ノ如シ戸第三條第二一六條

第一 戸籍吏又ハ之ト家ヲ同シタル者ノ戸籍又ハ身分登記ニ關スル事件ニ付キテハ左ニ掲タル者之ヲ取扱フ家ヲ同シタルトハ同居ノ義ニアラスシテ戸籍ヲ同シタルトハ義ナリ

甲 市町村長又ハ區長カ戸籍吏ナル地ニ在リテハ市町村制ニ依リテ市町村長又ハ區長ノ事務ヲ代理スベキ者例ヘバ市町村ノ助役ノ職ニ充テラレ

乙 市町村長ヲ置カサル地ニ於テハ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ヲ代理スベキ者

丙 甲及ヒ乙ニ掲ケタル者ナキ地ニ在リテハ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所長カ司法大臣ノ認可ヲ得テ豫メ定メタル者

第二 戸籍吏又ハ之ト家ヲ同シタル者ト前第一ニ掲ケタル者又ハ之ト家ヲ同シタル者トノ間ノ戸籍又ハ身分登記ニ關スル事件ニ付キテハ左ニ掲ケル者之ヲ取扱フモノトス

丁 市ニ在リテハ市參事會員ノ一人町村又ハ區ニ在リテハ他ノ吏員ノ上席者

戊 市町村長ヲ置カサル地ニ在リテハ他ノ吏員ノ上席者

己 丁及ヒ戊ニ掲ケタル者ナキ地ニ在リテハ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所長カ司法大臣ノ認可ヲ得テ豫メ定メタル者

以上ニ示シタル甲乙丁及ヒ戊ハ戸籍法ノ規定ニ依リテ當然戸籍吏ノ職務ヲ行フモノニシテ丙ト己トハ地方裁判所長カ豫メ定メタル者因リテ之ヲ行フモノナリ

戸籍吏ノ職務ヲ行フ者ハ右第二又ハ第三ニ掲ケタル事件以外ニ付キテハ身分登記及ヒ戸籍ニ關スル事務ヲ取扱フ職權ナシ

九)事務ヲ取扱フ場所 戸籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ハ戸籍役場ニ於テ之ヲ取扱フ(戸籍第一條)戸籍役場ハ市役所又ハ町村役場ヲ以テ之ニ充ツ但區長ヲ以テ戸籍吏ニ充ツル場合ニ於テハ區役所ヲ以テ之ニ充ツ又市町村長ヲ置カサル地ニ於テハ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ノ職務ヲ行フ役場ヲ以テ戸籍役場トス

(戸籍第二一六條)

戸籍吏及ヒ其職務ヲ行フ者ハ戸籍役場以外ニ於テ其事務ヲ取扱フコトヲ得ズ

(三)事務ヲ取扱フ吏員ノ除斥 戸籍吏又ハ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者ハ自己又ハ自己ト家ヲ同シタル者ニ關スル事件ヲ取扱フコトヲ得ス蓋シ若シ之ヲ取扱フコトヲ得トスル下キハ或ハ法律ノ規定ニ違背シタル屬辭ヲ受繼シ或ハ虚偽

戸籍法 裁判 身分登記及ヒ戸籍ニ關スル事務ヲ行フ機關

一五

ノ登記ヲ爲ス等ノ際ナキニテラサルヲ以テ公ノ秩序ヲ維持スル爲メ之ヲ取扱フコトヲ得ラシメタルナリ  
 戸籍吏ノ職務ヲ行フ者ヲ設ケタルハ戸籍吏ヲシテ自己又ハ自己ト家ヲ同シク  
 スル者ニ關スル事件ヲ取扱フコトヲ得ラシムルノ趣旨ニ出テタルコトハ第  
 三條ノ規定ニ徴シ明白ナリ

(二)事務ヲ取扱フ吏員ノ故障  
 戸籍吏又ハ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者カ疾病等ノ爲メ其取扱フヘキ事務ヲ處理スルコト能ハサルコトアルモ他ノ吏員ハ之ニ代  
 リ其事務ヲ取扱フコトヲ得ストナレハ身分登記及ヒ戸籍ニ關スル事務ヲ取  
 扱フ職權ヲ有スル國家ノ機關ハ戸籍吏ト戸籍吏ノ職務ヲ行フ者トノ唯ニアル  
 ノミナレハナリ但司法省民刑局長ハ此點ニ關スル問合等ニ對シ反對ノ意見ヲ  
 回答シ青森區裁判所判事ノ問答ニ對スル明治三十一年七月二十六日附民刑局  
 長回答等又實際ニ於テモ他ノ吏員ハ戸籍吏ニ代リ其事務ヲ執リ居ルカ如シ  
 (三)事務ノ監督  
 戸籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ヲ監督スル官廳ハ左ノ如シ  
 第一 區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事ハ其裁判所ノ管轄區域内ノ戸籍吏

及ヒ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者ヲ監督ス(戸第五條第一項)

(注意) 區裁判所ノ一人ノ判事トハ一ノ區裁判所ニ於ケル判事ノ數カ二人  
 以上ナルトキ其中ノ一人ヲ指スニアラスシテ一ノ區裁判所ニ於ケル判事  
 ノ數カ一人ナル場合ニ其判事ヲ指スモノトス

監督判事ニ付キテハ裁判所構成法第十一條第五項ノ規定ヲ參照スヘシ  
 第二 地方裁判所長ハ其裁判所ノ管轄區域内ノ區裁判所ノ一人ノ判事及ヒ監  
 督判事並ニ戸籍吏及ヒ其職務ヲ行フ者ヲ監督ス(戸第五條第二項ニ依リ裁判  
 所構成法第四編第一三五條準用)

第三 控訴院長ハ其控訴院ノ管轄區域内ノ地方裁判所長以下ヲ監督ス(同上)

第四 司法大臣ハ其職務ヲ行フ者ハ司法大臣控訴院長地方裁判所長並ニ區裁判  
 所ノ一人ノ判事又ハ監督判事ノ監督ヲ受ク  
 戸籍吏及ヒ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者ニ對スル上級官廳ノ監督權ハ左ノ事項ヲ包  
 含ス(戸第五條第二項ニ依リ裁判所構成法第四編第一三五條準用)

第一 戸籍吏又ハ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者カ不適當又ハ不充分ニ取扱ヒタル事  
 務ニ付キ其注意ヲ促シ或ハ適當ニ其事務ヲ取扱フマデ之ニ副令スル事  
 第二 戸籍吏又ハ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者ノ地位ニ不相應ナル行狀ニ付キ之ニ  
 警告スル事  
 (三) 事務ヲ取扱フ吏員ノ責任  
 戸籍吏又ハ其職務ヲ行フ者カ其義務ニ違背シ  
 タルニ因リ生スル責任ハ之ヲ別チテ三種トス第一 行政法上ノ責任 第二 刑法上  
 ノ責任 第三 私法上ノ責任是ナリ  
 第一 行政法上ノ責任 戸籍吏及ヒ其職務ヲ行フ者ハ國家ニ對シ忠實ニ其職  
 務ヲ行フ義務ヲ負フ然レモ若シ此義務ヲ違サタル者アルトキハ國家ハ官制  
 ヲ維持スル爲メ之ニ懲戒罰ヲ科ス戸籍法第二百十二條及ヒ第二百十三條ニ  
 規定シタル通料即チ是ナリ  
 第二 刑法上ノ責任 戸籍吏又ハ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者カ其職務ニ關シ  
 秩序ヲ亂ス行爲ヲ爲シタルトキハ刑法ノ規定ニ依リ刑罰ニ處サラル  
 第三 私法上ノ責任 戸籍吏又ハ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者カ他人ニ損害ヲ加ヘ

論タル場合ハ之ヲ左ノ二種ニ分類スルコトヲ得

甲 損害ノ原因カ職權ノ範圍ヲ超シタル行爲ナルトキニ此場合ニ在リテ  
 其行爲ハ國家ノ機關ノ行爲ニアラスシテ一私人ノ行爲ナリ故ニ民法ノ  
 不法行爲ニ關スル規定ニ從ヒ損害ヲ賠償セザルハカラス  
 乙 損害ノ原因カ職權ノ範圍ヲ超エタル行爲ナルトキニ此場合ニ在リテ  
 ハ其行爲ハ一私人ノ行爲ニアラスシテ國家ノ機關ノ行爲ナリ故ニ特別ノ  
 規定ナキ限りハ損害ヲ賠償スヘキ責任ナキモノトス  
 特別ノ規定アルニ依リ賠償ノ責任アル場合ハ其損害カ戸籍吏又ハ戸籍吏  
 ノ職務ヲ行フ者ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタルニキ即チ是ナ  
 リ戸籍法第六條  
 以上三種ノ責任ハ各異ナリタル法律關係ニ基キ故ニ戸籍吏又ハ戸籍吏ノ職務  
 ヲ行フ者ハ同一ノ行爲ニ因リ私法上ノ責任ト刑法上ノ責任又ハ行政法上ノ責  
 任トヲ併セ負フコトナキニアラス



### 第四章 抗告

(四) 總論 戸籍吏以下戸籍吏ト謂フハ戸籍吏ノ職務ヲ行フ者ヲ包含スル本身  
登記又ハ戸籍ニ關スル事件ニ付キ爲シタル處分ヲ不當トスル者ハ戸籍現場ノ  
所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得戸籍第二〇三條蓋シ抗告ハ戸  
籍吏ノ不當ナル處分ニ對シ救済ヲ求ムル方法ニシテ其處分ヲ受ケタル者ニ限  
リ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

(五) 抗告ニ關スル手續 抗告ハ左ノ方式ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス(戸籍第二〇  
四條)

第一 抗告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス其書面ヲ抗告狀ト曰フニ  
第二 抗告狀ニハ關係書類ヲ添附スルコトヲ要ス關係書類トハ例ヘハ抗告カ  
身分登記又ハ戸籍ニ關スル届出又ハ申請ヲ却下シタル處分ニ對スル場合ナ  
ルトキハ其却下セラレタル届書又ハ申請書ノ如キモノヲ云フ

第三 抗告ハ管轄區裁判所ニ之ヲ差出スコトヲ要ス

抗告ヲ受ケタル區裁判所ハ抗告狀及ヒ附屬書類ヲ抗告ヲ申立テラレタル處分  
ヲ爲シタル戸籍吏ニ送付シテ其意見ヲ求ムルコトヲ要ス(戸籍第二〇五條)

戸籍吏カ前項ノ書類ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ抗告ヲ理由アリト認ムルト  
キハ處分ヲ變更シテ其旨ヲ裁判所及ヒ抗告ヲ爲シタル者ニ通知スルコトヲ要  
シ抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ其意見ヲ附シ送付ヲ受ケタル書類ヲ五日內  
ニ裁判所ニ返還スルコトヲ要ス(戸籍第二〇六條)

區裁判所カ戸籍吏ヨリ抗告書類ノ返還ヲ受ケタルトキハ抗告ノ當否ヲ審査ス  
ルコトヲ要ス而シテ抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ之ヲ却下シ其理由アリト  
認ムルトキハ戸籍吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス裁判所ハ戸籍吏ニ裁判  
所カ相當ト認ムル處分ヲ爲スヘキコトヲ命スルヲ得ルニ止マリ自ラ戸籍吏ノ  
處分ヲ變更シ又ハ新ナル處分ヲ爲スコトヲ得ス

抗告ヲ却下シ又ハ處分ヲ命スル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲シ職權ヲ以テ戸籍吏  
及ヒ抗告ヲ爲シタル者ニ之ヲ送還スルコトヲ要ス以上戸籍第三〇七條)

區裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルト希



二 限り其區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ抗告ヲ爲スモトシ得面シテ其抗告ノ手續ハ民事訴訟法ノ抗告ノ規定ニ從フヘキモノトシ戸籍第二〇八條) 地方裁判所ノ決定ニ對シテハ更ニ抗告ヲ爲ス可トモ得ズ(民事訴訟法第三〇九條) 抗告ノ費用ニ付キテハ非訟事件手續法第三十六條乃至第三十二條ノ規定ヲ準用ス(戸籍第二〇九條)

## 第二編 身分登記

### 第一章 身分登記

(六) 總論 身分登記ハ(二)ノ第二ニ説明シタル如ク身分登記簿ニ於ケル身分ニ關スル法定事項即チ戸籍法ニ規定シタル登記スヘキ事項ノ登錄ナリ(注意) (イ) 身分登記簿ハ戸籍法第七條乃至第十條ノ規定ニ從ヒ作製シタル帳簿ニシテ戸籍吏之ヲ管掌ス此帳簿ニ登記スルニアラザレハ身分登記ノ效力ナシ但戸籍法第二百十九條ノ規定ニ依リ從來ノ登記目錄ニ爲シタル登記ハ此限ニ在ラス

(ウ) 戸籍法ニ規定シタル登記スヘキ事項以外ノ事項ハ假令之ヲ身分登記簿ニ記載スルモ身分登記ニアラス

身分登記ハ日本人及ヒ日本ノ領域内ニ在ル外國人ニ付キ之ヲ爲スモノトシ但日本人ト雖皇族ニ付キテハ此限ニ在ラス

(七) 登記スヘキ事項 身分登記ハ左ノ法定事項ニ限リ之ヲ爲スモノトス

- 第一 出生 嫡出子庶子私生子ノ出生及ヒ棄兒ノ發見是ナリ(戸籍法第二章第二節)
- 第二 嫡出子ノ否認(戸籍法第四章第三節)
- 第三 私生子ノ認知(戸籍法第四章第四節)
- 第四 養子縁組(戸籍法第五章第五節)
- 第五 養子離縁(戸籍法第六章第六節)
- 第六 婚姻(戸籍法第七章第七節)
- 第七 離婚(戸籍法第八章第八節)
- 第八 後見(後見ノ開始後見人ノ更迭又ハ後見人ノ任務ノ終了是ナリ(戸籍法第九章第九節)

第九 隠居戸第四章第十節

第十 失踪戸第四章第十一節

第十一 死亡戸第四章第十二節

第十二 家督相続戸第四章第十三節

第十三 推定家督相続人ノ廢除戸第四章第十四節

第十四 家督相続人ノ指定戸第四章第十五節

第十五 入籍離籍及ヒ復籍拒絶戸第四章第十六節

第十六 廢家及ヒ絶家戸第四章第十七節

第十七 分家廢絶家再興戸第四章第十八節

第十八 日本ノ國籍ノ取得及ヒ其喪失戸第四章第十九節

第十九 氏名及ヒ族稱ノ變更戸第四章第二十節

第二十 身分登記ノ取消 身分登記ノ登記原因ノ無效戸第九一條第九二條第一〇五條等及ヒ其取消戸第九二條第一〇六條第一一二條第一二四條等又ハ其他ノ事由戸第七三條第七六條等ニ因ル原登記ノ取消ヲ關ス

第二十一 身分登記ノ變更戸第四章第二十一節

向以上ノ事項ニ付キテハ第三章及ヒ第四章ニ於テ詳細ノ説明ヲ爲スヘシ

(ア) 身分登記ト戸籍トノ關係 戸籍吏カ身分登記ヲ爲シタルトキハ戸籍法第

百七十九條以下ノ規定ニ從ヒテ戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス(戸第一七八條抑

モ身分登記ヲ爲シタル事項ヲ更ニ戸籍ニ記載スルハ既ニ(二)ノ第三ニ説明シタ

ルカ如ク身分登記簿ハ閱覽等ニ不便ナルカ爲メニ外ナラス故ニ身分登記ト戸

籍ノ記載トハ何レモ身分ニ關スル事項ヲ公證スルモノナリト雖身分登記ト本

ニシテ戸籍ノ記載ハ末ナリ隨テ若シ同一事項ニ關スル身分登記ト戸籍ノ記載

トカ相抵觸スルトキハ身分登記ニ依ラザルヘカラス(三)ノ第一ニ關スルハ(完)戸

籍法實施前ニ爲シタル登記目録及ヒ戸籍ニ於ケル登記目録ニ左ニ登記目録

ト戸籍トニ別テ之ヲ説明スルベシ

第一 登記目録ニ於ケル登記ニ戸籍法實施前ニ在リテハ登記目録ナルモノナ

ラテ身分ニ關スル届書ヲ受理シタルトキハ先ツ之ヲ登記目録ニ記入シ然ル

後之ヲ戸籍ニ登記シタリ又明治十九年十月內務省令第二十三號戸籍取扱手續

参照)而シテ登記目録ト戸籍トハ例ヤモ身分登記簿ノ事項ヲ爲證スルモノナ  
シテ兩者ノ關係ハ戸籍法實施後ニ於ケル身分登記ト戸籍トハ關係ト相同シ  
キカリシカ故ニ戸籍法實施前ニ於テ登記目録ニ爲シタル記入ハ戸籍法實施後  
ト雖モ身分登記ト同ノ效力ヲ有ス

第二 戸籍ニ於ケル登記ハ戸籍法實施前ニ在リテハ登記目録ナラモノアリ  
ルコトハ前ニ述ベタル如シ然レトモ登記目録ノ制度ハ地方ニ依リテハ或ハ  
之ヲ實行セザリキ而シテ此ノ如キ地方ニ在リテハ戸籍ハ戸籍タルト同時ニ  
登記目録ニ代用セラレシカ故ニ其地方ニ於テ戸籍法實施前ニ爲シタル戸籍  
ノ登記ハ戸籍法實施後ト雖モ身分登記ノ效力ヲ有ス又ハ前ニ述ベタル如  
ク登記目録ノ設ケアリタル地方ニ在リテハ戸籍法實施前ニ爲シタル戸籍ノ登  
記ト雖モ戸籍法實施後ニ於ケル戸籍ノ記載ト同一ノ效力ヲ有スルニ過キ  
ズ

### 第二章 身分登記簿

(三) 總論 身分登記簿ハ戸籍吏カ身分登記ヲ爲ス帳簿ニシテ身分登記簿ノ制

度ハ戸籍法實施前ニ於ケル登記目録ノ制度ヲ改正シタルモノナリ(戸籍法第一  
(三)身分登記簿ノ種類及ヒ區別 身分登記簿ニハ本籍人身分登記簿及ヒ非本  
籍人身分登記簿ノ二種アリ(戸籍第七條)

第一 本籍人身分登記簿ハ(イ)其登記簿ヲ管掌スル戸籍吏ノ管轄區域内ニ本籍  
ヲ有スル者ノ身分ニ關係スル事項ニ付キ登記ヲ爲シ(戸籍第一九條)又(ウ)被登記  
者ノ本籍カ其登記スヘキ事項ニ因リ其戸籍吏ノ管轄ニ歸シ又ハ其管轄ヲ離  
ルル場合ニ於テ登記ヲ爲ス(戸籍第二〇條)帳簿ナリ

第二 非本籍人身分登記簿ハ戸籍吏ノ管轄區域内ニ本籍ヲ有セザル者ノ身分  
ニ關スル事項ニ付キ登記ヲ爲ス帳簿ナリ(戸籍一九條)

本籍人身分登記簿及ヒ非本籍人身分登記簿ハ各正副二本ヲ備フ(戸籍七條)正本  
ハ身分登記簿ノ原簿ナリ正本ノ向ホ副本ヲ備ヘシムルハ天災地變等ニ因リテ  
正本カ滅失又ハ毀損スルコトアルヘキヲ慮リテナリ又ハ副本ニ對シテ  
正本ト副本トニハ同一事項ヲ登記スヘキモノトス而シテ若シ同一事項ニ關ス  
ル副本ニ於ケル登記ト副本ニ於ケル登記トカ相抵觸スルコトキハ原簿タル正本

ニ於ケル登記ハ副本ニ於ケル登記ニ對シテ公證ノ義務有ラズ  
本籍人身分登記簿ノ正本及ヒ副本並ニ非本籍人身分登記簿ノ正本及ヒ副本ハ  
戸籍法第四章第三節乃至第二十節ニ掲ケル届出事件ノ區別ニ從ヒ各別冊ト  
爲ス但便宜ニ依リ之ヲ合經スルコトヲ得戸籍第七條

(注意) 登記取消ノ登記ト登記變更ノ登記トハ原登記ノ欄外ニ之ヲ添テ  
ヲ要ス戸籍第二四條第二五條故ニ此三種ノ登記ニ付キテハ別冊ノ身分登記簿  
ヲ備フヘキモノニアラス戸籍法第七條第二項ニ第二節乃至第二十一節トア  
ルハ(第二節乃至第二十節)ノ誤ナリ

(三) 身分登記簿ノ編製 身分登記簿ハ一年毎ニ之ヲ編製ス戸籍第八條其用紙ニ  
付キテハ明治三十一年七月司法省訓令第五號ヲ參照スヘシ  
戸籍吏ハ豫メ翌年ノ身分登記簿ト爲スヘキ帳簿ヲ作り監督官區裁判所ノ一人  
ノ判事又ハ監督判事ノ契印ヲ請フコトヲ要シ監督官カ右帳簿ノ送付ヲ受ケタ  
ルトキハ職印ヲ以テ毎葉ノ綴目ニ契印シ表紙ノ裏面ニ其枚數ヲ記入シ職氏名  
ヲ墨シ職印ヲ捺捺シテ之ヲ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス(戸籍第九條第五條第一

項

身分登記簿ノ用紙カ不足ナルトキハ戸籍吏ハ更ニ帳簿ヲ作りテ監督官ノ契印  
ヲ請フコトヲ要シ(戸籍第一〇條)

監督官カ右帳簿ノ送付ヲ受ケタルトキハ前項ニ述ヘタル手續ト同様ノ手續ヲ  
爲シ之ヲ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

(三) 身分登記簿ノ保存 身分登記簿ノ正本ハ永久ニ之ヲ戸籍役場ニ保存ス(戸  
籍第一一條)

登記ヲ完結シタル身分登記簿ノ副本ハ運滞ナク之ヲ監督區裁判所ヲ管轄スル  
地方裁判所ニ納付シ地方裁判所ハ其送付ヲ受ケタルトキハ永久ニ之ヲ保存ス  
(戸籍第一一條)

(注意) 登記ヲ完結シタル副本トハ戸籍法第四十一條ノ手續ヲ終ヘタル副本  
ヲ謂フ

正本ト副本トヲ異ナリタル場所ニ於テ保存スルハ天災等ニ因リ毀損又ハ滅  
失スル危險ヲ少ナクシテ之ヲ爲メ戸籍三十一條ノ旨ニ當テ保存スル

向正本及副本保存ノ方法ニ關シテハ明治三十一年七月司法省訓令第五號ア  
 (四) 身分登記簿ヲ持出スコト 身分登記簿ハ事變ヲ避クル爲メニスル場合ヲ  
 除ク外之ヲ戸籍役場外ニ持出スコトヲ得ズ但登記ヲ終結シタル即チ戸籍法第  
 四十一條ノ手續ヲ終ヘタル登記簿ニ付キ裁判所又ハ豫審判事ノ命令アリタル  
 トキハ此限ニ在ラス戸第一二條)

(五) 身分登記簿ノ閲覧又ハ登記ノ謄本若クハ抄本ノ交付 何人ト雖モ手数料  
 ヲ納付シテ身分登記簿ノ閲覧又ハ登記ノ謄本若クハ抄本ヲ請求スルコトヲ得  
 (戸第一三條)而シテ其手数料ニ付キテハ第二十七條ノ規定ニ依リ司法大臣ハ  
 明治三十一年司法省令第十三號ヲ以テ閲覧ハ一回毎ニ金十錢又謄本若クハ抄  
 本ノ交付ハ原本一枚毎ニ金十錢ト定メタリ

(注意) 登記ノ謄本トハ登記ノ寫ヲ謂ヒ登記ノ抄本トハ登記ノ抜書ヲ謂フ  
 官吏又ハ公吏カ職務上閲覧又ハ交付ノ請求ヲ爲ストキハ手数料ヲ要セス  
 納付シタル手数料ハ之ヲ市町村ノ収入トス但國庫ヨリ戸籍役場ノ經費ヲ支

辨スル地ニ在リテハ之ヲ國庫ノ収入トス(戸第二一七條) 第一三條

閲覧ヲ請求スル者アルトキハ戸籍吏ハ職務ニ差支ナキ限リハ之ヲ許ササルヘ  
 カラス

謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ戸籍吏之ヲ作リ原本ト相違ナキ  
 旨ヲ附記シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シテ之ヲ交付スルコトヲ要ス手数料ノ外  
 郵送料ヲ納付シテ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ戸籍吏之ヲ送  
 付スルコトヲ要ス(戸第一三條)

戸籍吏カ閲覧又ハ交付ノ請求ヲ許ササル場合ニ於テハ書面ヲ以テ其旨ヲ請求  
 者ニ告知スルコトヲ要ス(戸第一三條)戸籍吏カ閲覧又ハ交付ノ請求ヲ許ササル  
 コトヲ得ルハ手数料又ハ郵送料ノ納付ナキトキ等正當ナル理由アル場合ニ限  
 ル閲覧又ハ交付ノ請求ヲ爲シタル者ハ之ヲ許ササル戸籍吏ノ處分ヲ不當トス  
 ルトキハ抗告ヲ爲スコトヲ得(抗告ニ付キテハ(四)及(五)参照) 第二條  
 閲覧又ハ交付ノ請求ヲ許ササル旨ノ告知ノ費用ハ其請求ヲ爲シタル者ヨリ之  
 ヲ徴收スルコトヲ得ス

(イ) 身分登記簿ノ再製及ヒ補充 身分登記簿ノ正本若クハ副本ノ全部又ハ一部ヲ滅失シタルトキハ可決大臣ハ其旨ヲ告示シ且全部滅失タル場合ニ於テハ其再製ニ付キ又其一紙ヲ滅失シタル場合ニ於テハ滅失シタル部分ノ補充ニ付キ必要ナル處分ヲ命ズルコトヲ要ス(第一四條)

(ロ) 身分登記簿ニ代用スルコトヲ得ベキ帳簿 戸籍法施行ノ日ヨリ明治三十一年十二月三十一日ニ至ルマテハ従前登記目録トシテ備ヘタル帳簿ニ限リ之ヲ以テ身分登記簿ニ代用スルコトヲ得タリ(戸第二一九條)然レドモ明治三十二年以後ニ在リテハ他ノ帳簿ヲ以テ身分登記簿ニ代用スルコトヲ得ス

### 第二章 登記手續

#### 第一節 登記ヲ爲スコトヲ要スル場合

(イ) 登記ヲ爲スコトヲ要スル場合 身分登記ハ左ノ場合ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ要ス

第一 戸籍吏カ身分ニ關スル届出ヲ受ケタルトキ(戸第一五條第一號) 身分ニ

關スル届出トシテ戸籍法第四章第二節乃至第二十節ニ規定シタル事項ニ付キテノ届出又ハ本籍分明ナラザル者ニ付キ登記ヲ爲シタル場合ニ於ケル其者ノ本籍カ分明ト爲ラタルコトノ届出(戸第二六條)附テ蓋シ届出トシテ登記ヲ爲スコトヲ私人ヨリ戸籍吏ニ請求スル行爲ナリ届出ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヲ通則トスレトモ正當ノ事由アルトキニ限リテ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ許ス(戸第四三條)

#### 第二 戸籍吏カ身分ニ關スル届書ヲ送付ヲ受ケタルトキ(戸第一五條第一號)

(甲) 外務大臣ヨリ身分ニ關スル届書ノ送付ヲ受ケタルトキ 外國ニ在ル日本ハ戸籍法ノ規定ニ從ヒ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ身分ニ關スル届出ヲ爲スコトヲ得(戸第五九條)公使又ハ領事ハ其受取リタル届書ヲ三箇月内ニ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ本人ノ本籍地ノ戸籍吏ニ發送スルコトヲ要ス(戸第六一條)但シ其國ニ出立セザル限リ戸籍吏ヨリ身分ニ關スル届書ノ送付ヲ受ケタルトキハ其國ノ戸籍吏カ身分ニ關スル届出ヲ受ケタルトキニ準テ其届書吏ヨリ届書ヲ送付ス

戸籍法

身分登記 登記手續 登記ヲ爲スコトヲ要スル場合



受ケタルト雖(戸籍法第三條乃至第三五條參照)及ヒ他ノ戸籍吏ハ外務大臣ヨリ身分ニ關スル届書ヲ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ其戸籍吏ヨリ更ニ届書ヲ送付ヲ受ケタルトキ(戸籍法第三六條第一項參照)同條第一項ニ届出下アルハ戸籍吏カ届出ヲ受ケタル場合ノミヲ指シモトシテ外國ニ在ル公使又ハ領事カ届出ヲ受ケタル場合ヲ包含セス(是ナリハ前條ニ從テ)其書面ヲ指シ口頭ヲ以テ届出ヲ爲シタル場合ニ在リテハ戸籍法第五十四條及ヒ第五十五條ノ規定ニ從ヒ戸籍吏若クハ外國ニ在ル公使又ハ領事カ作リタル書面ヲ指ス

(注意) 戸籍法ニ在リテハ「届書」ナル文字ハ廣狹ニ様ノ意義ニ用キラレ即チ狹義ノ「届書」ハ書面ヲ以テ届出ヲ爲シタル場合ニ於ケル其書面ノミヲ指シ廣義ノ「届書」ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲シタル場合ニ於テ戸籍吏若クハ公使又ハ領事カ作リタル書面ヲモ包含ス而シテ戸籍法第三章ニ在リテハ「届書」ナル文字ハ廣義ニ於テ用キラル

第三 戸籍吏カ身分ニ關スル報告ヲ受ケタルトキ(戸籍法第一五條第二號)戸籍法

第二百二十九條第三百一十一條第三百二十二條又ハ第六十六條ノ規定ニ依リ監獄ノ長其他ノ官廳又ハ公署ヨリ身分ニ關スル報告ヲ受ケタルトキ是ナリ

第四 戸籍吏カ身分ニ關スル報告ノ送付ヲ受ケタルトキ(戸籍法第三條)戸籍吏ヨリ前第三ノ報告ノ送付ヲ受ケタルトキヲ謂フ

戸籍法ニハ戸籍吏カ前第三ニ掲ケタル報告ヲ受ケタル場合ニ於テ被登記者ノ本籍カ其戸籍吏ノ管轄ニ屬セザルトキハ其報告ヲ本籍地ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ストノ規定ナク又戸籍吏カ他ノ戸籍吏ヨリ報告ノ送付ヲ受ケタルトキハ身分登記ヲ爲スヘシトノ規定モナシ然レトモ第二百二十九條ニハ「死刑ノ執行アリタルトキハ監獄ノ長(中略)監獄所在地ノ戸籍吏ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス」トノ規定アリテ死亡者ノ本籍地ノ戸籍吏ニ其報告ヲ爲スヘキ旨ノ規定ナク(故ニ監獄所在地ト本籍地トカ異ナルトキハ本籍地ノ戸籍吏ハ監獄ノ長ヨリ死亡ノ報告ヲ受タルコトナシ然ルニ監獄所在地ノ戸籍吏ヨリ報告ノ送付ヲ爲ササルニ於テハ本籍地ノ戸籍吏ハ死亡ノ身分登記ヲ



第七 由ナシ第廿三十二條ニ依リ報告ニ付キタモ亦同シ又同法第三十六條  
 第二項末段ニハ届出以外ノ事由ニ因リ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ被登記者  
 ノ本籍カ戸籍吏ノ管轄ニ屬セザルトキ亦同シトノ規定アル届出以外ノ事由  
 トハ報告ヲ包含ス然ルニ報告ニ因リ登記ヲ爲シタルトキ其報告ヲ本籍地  
 ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要セザルニ於テハ報告ノ原本ヲ作ル必要ナシヨリ  
 推究スルトキハ戸籍吏カ前第三ニ掲ケタル報告ヲ受ケタル場合ニ於テ被登  
 記者ノ本籍ガ其戸籍吏ノ管轄ニ屬セザルトキハ登記ヲ爲シタル後第三十六  
 條第二項ニ依リ其報告ノ原本ヲ作りテ之ヲ其戸籍役場ニ留メ置キ報告ノ原  
 本ハ本籍地ノ戸籍吏ニ之ヲ送付シ本籍地ノ戸籍吏ハ之ニ依リテ身分登記ヲ  
 爲スヘキモノト解スルヲ正當ナリトス此事ニ付キテハ尙後ニ説明スヘシ

第五 戸籍吏カ身分ニ關スル證書ノ原本ヲ受ケタルトキ(戸第一五條第三號)  
 日本人カ外國ニ於テ作ラシメタル身分ニ關スル證書ヲ原本ヲ戸籍法第六十  
 條第二項ノ規定ニ依リ本人ヨリ本籍地ノ戸籍吏ニ差出シタル場合はナリ

第六 戸籍吏カ身分ニ關スル證書ノ原本ノ送付ヲ受ケタルトキ戸第一五條第

三號

(甲) 外務大臣ヨリ身分ニ關スル證書ノ原本ノ送付ヲ受ケタルトキ 前第五  
 ニ掲ケタル證書ノ原本ヲ戸籍法第六十一條ノ規定ニ依リ外務大臣ヨリ本  
 籍地ノ戸籍吏ニ送付シタルトキヲ謂フ

(乙) 他ノ戸籍吏ヨリ身分ニ關スル證書ノ原本ノ送付ヲ受ケタルトキ戸第三

六條第一項參照

第七 戸籍吏カ身分ニ關スル事項ヲ記載シタル航海日誌ノ原本ノ送付ヲ受ケ  
 タルトキ戸第一五條第四號

(甲) 艦長船長若クハ外務大臣ヨリ出生又ハ死亡ニ關スル事項ヲ記載シタル  
 航海日誌ノ原本ノ送付ヲ受ケタルトキ(戸第七八條第一三〇條參照)

(乙) 他ノ戸籍吏ヨリ出生又ハ死亡ニ關スル事項ヲ記載シタル航海日誌ノ原  
 本ノ送付ヲ受ケタルトキ(戸籍吏カ艦長又ハ船長ヨリ)ニ掲ケタル航海

日誌ノ原本ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ被登記者ノ本籍ガ其戸籍吏ノ管

戸籍法 身分登記 登記手續 登記手續ニ付キコトニ關スル條

轉ニ屬セタルトキハ登記ヲ爲シタル後之ヲ本籍地ノ戸籍吏ニ送付スヘク  
 本籍地ノ戸籍吏ハ之ニ依リテ登記ヲ爲スコトヲ要ス(戸第七八條第二項第  
 一三〇條第二項第三六條第二項末段及ヒ前第四〇條說明參照)  
 戸籍吏ハ外務大臣ヨリ送付ヲ受ケタル航海日誌ノ原本ヲ更ニ他ノ戸籍吏  
 ニ送付スヘキ場合ナシ  
 出生又ハ死亡ノ登記ノ外航海日誌ノ原本ノ送付ヲ受ケタルニ因リ身分登記  
 ヲ爲ス場合ナシ

第八

戸籍吏カ登記ノ取消ノ請求又ハ申請ヲ受ケタルトキ(戸第一五條第五號)  
 登記ノ取消トハ登記ヲ抹消スルヲ謂ヒ請求トハ檢事ヨリ取消ヲ求ムルヲ  
 謂ヒ(戸第一〇六六條第二項申請トハ私人ヨリ之ヲ求ムルヲ謂フ

登記ハ法律ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ取消スコトヲ得ス(戸第一  
 七條蓋シ蓋ニ登記ヲ取消スコトヲ許ササルナリ法律ニ特別ノ規定アル場合  
 ハ之ヲ左ノ二種ニ區別スルコトヲ得

(甲) 登記原因ノ無効又ハ取消ニ因ル登記ノ取消 婚姻ヲ無効トスル判決又

ハ婚姻ヲ取消スル判決カ確定シタルニ因リ婚姻ノ登記ヲ取消ス場合(戸第一  
 〇六條)如キ是ナリ其他戸籍法第九十二條第九十二條第九十五條第百二十  
 二條第百二十四條第百三十四條第百三十九條第百四十四條及ヒ第百四十  
 五條等ヲ參照スヘシ

(乙) 未定又ハ知レサル事項ニ付キ爲シタル登記ヲ其事項カ確定シ又ハ明カ  
 ナルニ至リタルニ因リ取消ストキ 例ヘバ父未定ノ子ノ出生ノ登記アリ  
 タル後父カ確定シタルニ因リ其登記ノ取消ヲ申請スル場合(戸第七三條又  
 ハ養兒即チ父母カ知レサル子ノ發見ノ登記ヲ爲シタル後養兒ノ父又ハ母  
 カ現出シ其兒ヲ引取リタルニ因リ其登記ノ取消ヲ申請スル場合(戸第七六  
 條)ノ如キ是ナリ

第九 戸籍吏カ登記ノ變更ノ申請ヲ受ケタルトキ(戸第一五條第五號)前第八  
 條ニ於ケルト異ナリ檢事ヨリ登記ノ變更ノ請求ヲ受ケタルコトナシ  
 登記ハ法律ニ別段ノ規定アル場合ノ外之ヲ變更スルコトヲ得ス(戸第一七條  
 法律ニ別段ノ規定アル場合ハ左ノ三種ニ之ヲ區別スルコトヲ得)

(甲) 登記ノ付キ錯誤又ハ遺漏アルモノトシテ發見シタルモノ之ヲ訂正シ又ハ増減スル爲メ其ノ變更ヲ申請シ例ニ出登身分登記ニ于テ生年月日ニ付キ誤謬アルトキ又ハ男女ノ別ヲ記載スルモノ其生年月日ヲ訂正シ男女ノ別ヲ追加スルカ爲メニ其ノ變更ノ申請ノ如キ是ナリ月第一六七條乃至第一六九條

(乙) 登記ノ抹消ノ申請ニシテ前第八ニ掲ケタル取消ノ申請ニアラザルモノハ例ニハ届出義務者ニアラザル者ノ届出ニ因リテ爲シタル登記又ハ生存中ノ人ニ付キ爲シタル死亡ノ登記ノ抹消ノ申請ノ如キ是ナリ戸籍法ハ此種ノ抹消ノ申請ヲ許スヤ否ヤハ一ノ疑問ナリ抑モ此種ノ抹消ノ申請ハ或身分登記ノ全部ヲ抹消スルコトヲ求ムルモノナルヲ以テ前第七ノ取消ノ申請ト酷ク相似タリ然レトモ取消ノ申請ハ法律ニ特別ノ規定アルニアラザレハ之ヲ許ササルハ即チ前第七ニ於テ説明シタル如クモシテ戸籍法第七十三條第九十一條等法律ニ特別ノ規定アル場合ハ何レモ他ノ特別ナル場合ニ關スルニミナラス取消ノ申請ニ關スル概括的ノ規定ナ

キカ故ニ取消ノ申請ノ方法ニ依リ此種ノ抹消ノ申請ヲ爲スコトヲ得スト謂ハラルヘカラス次ニ變更ナル文字ハ通例現ニ存在スル或モノヲ訂正シテ増補シ又ハ其ノ全部ヲ消除スルコトヲ意味スル文字ニシテ現ニ存在スル或モノノ全部ヲ滅失セシムル場合ニ用キラルルコトヲシ隨テ此通例ノ意義ニ依ルトキハ(甲)又ハ(丙)ニ掲ケタル如キ場合ニ在リテハ變更ノ申請ヲ爲スヲ得レトモ全部ヲ抹消スル爲メニハ變更ノ申請ヲ爲スコトヲ得ザルカ如キ果シテ然リトスレバ此種ノ抹消ノ申請ハ取消ノ申請ノ方法ニ依リテモ將タ變更ノ申請ノ方法ニ依リテモ之ヲ申請スルコトヲ得スト謂ハラルヘカラス然レトモ或登記ノ一部ニ錯誤アル場合ニ於テハ變更ノ申請ニ因リテ部分ヲ抹消スルコトヲ申請スルヲ許スニ反シ全部ニ錯誤アル場合ニ於テハ其全部ノ抹消ヲ申請スルコトヲ許サズト云フハ甚タ開レナク且届出義務者ニアラザル者ノ申請ニ因リテ爲シタル登記又ハ生存中ノ人ニ付キ爲シタル死亡ノ登記且如キハ届出ノ手續ニ本法ノ規定ニ違背シ又ハ登記ノ事實ト一致セザル爲メ當然登記ノ效力大キニ拘ラズ之ヲ抹消スルハ自由ナ

少隨テ其登記ヲ存在セシメテハカラストスルハ國家又ハ一般世人ハ其登記ヲ適法ニシテ且テ有效ナリト誤信スルコトアルヘク爲メ身分登記ナル制度ヲ設ケタル立法上ノ主義ヲ貫徹スルコト能ハサルニ至ルヘシテ予惟フニ法律ニ用キタル文字ハ常ニ通例ノ意義ニ於テ用キラレタリト爲スハ解釋方法ノ當ヲ得テ然レモナリ蓋シ其法律ノ或規定又ハ其法律ノ全規定等ヨリ推究スルコトキ其法律中ノ或文字ハ通例ノ意義ニ於ケルヨリモ廣ク若クハ狭ク用キラレタルコトヲ知ルヲ得ル場合アレハナリ今本問題ニ付キ考フルニ(乙)ニ掲ケタル場合ニ於テ登記ノ抹消ヲ許サストスレバ公益ニ反スルコトハ前段ニ説明シタルカ如ク又登記ノ一部ニ錯誤アル場合ニ其錯誤アル部分ノ抹消ヲ許シナカテ其登記ノ全部ニ錯誤アル場合ニ其全部ヲ抹消スルコトヲ許ススト爲スハ甚ク其謂レナキコトモ亦前段ニ説明シタルカ如ク故ニ予ハ戸籍法ニ於テ登記ノ變更ト謂フハ通例ノ意義ニ於ケルヨリモ廣ク用キラレ甲及ヒ丙ニ掲ケタル場合ハ勿論前第八ニ掲ケタル登記ノ取消ノ申請ヲ除キタル以外ノ全部ノ抹消ヲ求ムル申請即チ

(乙)ニ掲ケタル申請ニ包含スト解スルヲ徑當ナリト信シ(乙)ニ掲ケタル申請ニ付キテハ(甲)ニ掲ケタル申請ト同シク戸籍法第六十七條乃至第六十九條ノ規定ヲ適用スヘキニナリト信ス

(丙)其他ノ變更ノ申請(戸第七九條參照)ニ依リテ發生スル場合ニ於テハ(十)戸籍吏カ届出等ヲ受理セザリシ爲メ其處分ニ對シ戸籍法第二百三條ノ規定ニ依リテ抗告ヲ爲シタル者アル場合ニ裁判所カ其抗告ヲ理由アリト認メ同法第二百七條第一項ノ規定ニ依リ戸籍吏ニ登記ヲ爲スヘキコトヲ命シタル

第十 戸籍吏カ届出等ヲ受理セザリシ爲メ其處分ニ對シ戸籍法第二百三條ノ規定ニ依リテ抗告ニ付キテハ(四)及ヒ(五)參照

第十一 戸籍吏カ登記ヲ爲スコトニ付キ裁判所ノ許可ヲ得タルトキ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ國籍喪失ノ届出ヲ爲サザリシトキハ戸籍吏ハ戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ國籍喪失ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス(戸第二七條)

右ノ場合ノ外裁判所ノ許可ヲ得テ身分登記ヲ爲スヘキ場合ナシ

裁判所ノ許可トハ裁判所ノ身分登記ヲ爲スヘキモノヲ戸籍吏ニ命スルニアラス故ニ第十一ニ在リテハ前第十ト異ナリ裁判所ノ命ニ因リ登記ヲ爲スニアラズシテ法律ノ規定ニ依リテ戸籍吏カ自ラ進ミテ登記ヲ爲スヘキ場合ニ於テ其前提要件トシテ裁判所ノ許可ヲ受タルニ過キスヘキモノニシテ以上第一乃至第十一ニ掲ケタル場合ト雖モ届出送付其他ノ手續カ戸籍法ノ規定ニ依リタルモノニアラザレハ登記ヲ爲スコトヲ得ス(戸第一六條)

**第二節 登記前ノ手續**

(一) 登記前ノ手續 第一節ニ掲ケタル第十一乃至第十ノ場合ニ在リテハ戸籍吏ハ届出報告等カ戸籍法ノ規定ニ依リタルモノナルヤ否ヤヲ審査シ若シ戸籍法ノ規定ニ反スルモノナルトキハ之ヲ受理スヘカラズ(戸第一六條) 届出報告等カ戸籍法ノ規定ニ依リタルモノナルキハ之ヲ受理シ其書類ニ受

附ノ番號及ヒ年月日ヲ記載シ遲滞ナク登記ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス(戸第一八條) 次ニ第一節ニ掲ケタル第十一ノ場合ニ在リテハ先ツ裁判所ノ許可ヲ求メ其許可アリタルトキハ其書類ニ受附ノ番號及ヒ年月日ヲ記載シ遲滞ナク登記ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス(戸第一八條)

**第三節 登記ノ手續**

(一) 登記ヲ爲スヘキ登記簿ニ身分登記簿ハ本籍人身分登記簿及ヒ非本籍人身分登記簿ノ二種ト爲シ各種ノ登記簿ハ各正副二本ヲ備ヘ又各種ノ登記簿ハ戸籍法第四章第二節乃至第二十節ニ掲ケタル届出事件ノ區別ニ從ヒ各別冊ト爲シ若クハ之ヲ合綴スルコトヲ(二)ニ於テ之ヲ説明シタリ而シテ戸籍吏カ登記ヲ爲スニ方リテハ左ノ區別ニ從ヒ相當登記簿ヲ正本及ヒ副本ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第一 從來其戸籍吏ノ管轄區域内ニ本籍ヲ有スル者ニ關スル場合例ヘシ本籍

人ノ死亡ノ登記(被登記者ノ本籍カ届出カ、届出其他ノ事由ニ因リ戸籍吏ノ管轄ニ歸シタル場合)ハ其戸籍吏ノ管轄區域外ニ本籍ヲ有シタル者カ管轄區域内ニ本籍ヲ有シタル死亡者ノ家付相續ヲ爲シタルコトヲ登記又ハ被登記者ノ本籍カ届出其他ノ事由ニ因リ戸籍吏ノ管轄ヲ離ルル場合例ハ從來其戸籍吏ノ管轄區域内ニ本籍ヲ有スル者カ管轄區域外ニ本籍ヲ有スル者ノ家ハ入籍シタルコトノ登記ニ於テハ本籍人ノ身分登記簿ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス(戸第一九條第二〇條第一項)ハ本籍人ノ身分登記簿ニ非本籍人ノ身分登記簿ニ關スル場合例ハ非本籍人間ノ婚姻又ハ養子縁組ノ登記ハ非本籍人ノ身分登記簿ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス(戸第一九條被登記者ノ本籍カ分明ナラサルトキ例ハ何人ナルカヲ認識スルコト能ハサル者ノ死亡ノ登記)亦同シ(戸第二一條)

一箇ノ登記ニシテ本籍人及ヒ非本籍人ニ關スルトキ例ハ、戸籍吏ノ管轄區域内ニ本籍ヲ有スル女カ管轄區域外ニ本籍ヲ有スル男ト婚姻シタルトキノ如シハ同時ニ本籍人ノ身分登記簿及ヒ非本籍人ノ身分登記簿ニ其登記ヲ爲シ各

登記ノ例外ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス(戸第二〇條第二項)

第二 戸籍法第四章第二節乃至第二十一節ニ規定シタル届出事件ノ區別ニ從ヒ相當登記簿ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス(戸第一九條)ハ、戸籍法第四章第二節ニ掲ケタル届出事件ヲ二箇以上ニ涉ルトキハ各別ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス(戸第二三條例ハ、日本ノ國籍ヲ有セタル女ト日本ノ國籍ヲ有スル男トカ婚姻ヲ爲シタルコトノ届出アリタル場合ニ於テ婚姻ノ登記ト國籍取得ノ登記トヲ爲スカ如キ是ナリ(戸第一五七條之ヲ要スル)一箇ノ届出又ハ届書ノ送付等ニ因リテ二箇ノ登記ヲ爲スヘキ場合ナリトス

(三)登記簿ニ於ケル登記ヲ爲スヘキ場所 身分登記簿ノ用紙ハ義澤十三行野紙トス(明治三十一年七月十三日司法省訓令戸籍法取扱手續第五號第一條參照)然ルニ登記ニハ其種類ニ依リ登記簿ノ用紙ノ野内ニ之ヲ記載スルモノト野外ニ之ヲ記載スルモノトノ別アリ戸籍法ニテハ登記簿ノ用紙ヲ野外ノ欄外トイヒ(戸第二六條等)野内ニ付キタル特別ノ名稱ヲ用キ然レドモ予ハ戸籍法



カ野外ノ欄外ト稱スルニ對シ便宜ノ爲メ野内ノ欄内ト名然レテヤ干ハ其諸  
 第一ノ欄内ニ爲スヘキ登記ノ後ノ第二ノ欄ケタル各種ノ登録ヲ除キタル以外  
 然レ總テノ登記ノ前(三)ニ掲ケタル區別ニ備ヒ當該登記簿ノ用紙ノ欄内ニ之ヲ  
 登記スヘキモノトスルニ付(四)同前ノ規定ニ依リ野外ノ欄外ニ爲スヘキ登記ノ左ニ掲ケ  
 第二ノ欄外ニ爲スヘキ登記ノ登記簿ノ用紙ノ欄外ニ爲スヘキ登記ノ左ニ掲ケ  
 第三種ニ限ル(五)ニ付ス

- (甲) 登記取消ノ登記戸第二四條ノ如何ナル場合ニ登記取消ノ登記ヲ爲スヘ  
 キモノナルカニ付キテ(元)ノ第八ヲ參照スヘシ
- (乙) 登記變更ノ登記戸第二五條ノ如何ナル場合ニ登記變更ノ登記ヲ爲スヘ  
 キモノナルカニ付キテ(元)ノ第九ヲ參照スヘシ
- (丙) 本籍分明ナラザル者ニ付キ或登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍カ分明ト爲  
 サタル旨ノ届出又ハ報告アリテ且ツ其者カ本籍人ニアラザル場合ニ於テ  
 爲スヘキ登記戸第二六條第一項ノ其場合左ノ如シ
- (四) 戸籍法ノ規定ニ依リ身分登記ノ届書ニ記載スル事項中其事實ノ知

レナルモノアルトキハ其旨ヲ届書ニ記載スヘキモノナル(戸第五〇條)故  
 ニ届出事件ノ本人ノ本籍カ分明ナラザル場合ニ在リテハ届書ニ其旨ヲ記  
 載スルコトヲ要ス隨テ其届出ニ因リ戸籍吏カ爲スヘキ身分登記ニモ亦其  
 旨ヲ記載セザルヘカラス然ルニ其後ニ至リ届出事件ノ本人ノ本籍カ分明  
 ト爲リタルトキハ前ニ届出ヲ爲シタル者ハ本人ノ本籍カ分明ト爲リタル  
 コトノ届出ヲ爲スコトヲ得(此事ニ付キテハ更ニ本編第四章ニ於テ之ヲ説  
 明スヘシ)而シテ此本人ノ本籍カ分明ト爲リタルコトノ届出ニ基ク登記ハ  
 前ニ爲シタル登記ノ欄外ニ之ヲ爲スヘキモノトス但此者カ本籍人ナルト  
 キハ此限ニ在ラス(二) 野外ノ欄外ニ爲スヘキモノトスルニ付キテ(三) 野外  
 (五) 死亡者ノ本籍分明ナラス且ツ其何人タルコトヲ認識スルコト能ハザ  
 ルトキハ警察官ハ戸籍法第百三十三條第一項ノ規定ニ依リ遅滞ナク之ヲ  
 其地ノ戸籍吏ニ報告スヘシ戸籍吏ハ此報告ニ基キ其者ノ死亡ノ登記ヲ爲  
 スコトヲ要ス然レニ其後ニ至リ死亡者ノ本籍カ分明ト爲リタルトキハ警  
 察官ハ戸籍法第百三十二條第二項ノ規定ニ依リ遅滞ナク前ニ報告ヲ受ケ  
 戸籍法 身分登記 登録手續 登記ノ手續



タル戸籍吏ニ之ヲ報告スルコトヲ要シ戸籍吏ハ此報告ニ因リ爲スヘキ死亡者ノ本籍カ分明ト爲ラタルコトヲ登記ハ前ニ爲シタル死亡ノ登記ノ欄外ニ之ヲ爲スヘキモノトス(但死亡者カ本籍人ナルトキハ此限ニ在ラズ)右ニ掲ケタル場合ヲ除ク外報告ニ因リ欄外ニ登記ヲ爲スヘキ場合ナシ以上(甲)乙及ヒ(丙)ノ三種ノ登記ハ何レモ前ニ爲シタル登記ノ欄外ニ之ヲ記載スヘキモノトス蓋シ此三種ノ登記ハ前登記ヲ抹消シ又ハ變更シ若クハ前登記中分明ナラザル事項ヲ分明ナラシムル爲メ之ヲ爲スモノナルニ拘ラス前登記ト隔離シテ之カ登記ヲ爲ストキハ閱覽等ヲ爲スニ方リ不便少カラザルカ故ナリ

(三)登記ノ手續ノ通則  
 登記簿ノ用紙ノ欄内ニ爲スヘキ登記タルト欄外ニ爲スヘキ登記タルトヲ問ハス其登記ヲ爲スニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第一 登記ニハ戸籍法第四章ノ規定ニ依リ届出報告申請若クハ請求ヲ爲シ又ハ航海日誌ノ原本ニ記載シタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス戸籍第二二條第一項

身分ニ關スル證書ノ原本ニ依リテ爲ス登記ニハ原本ニ記載シタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス戸籍第二二條第二項

戸籍吏ニ登記ヲ爲スヘキコトヲ命シタル裁判ニ依リテ爲ス登記ニハ其裁判ヲ以テ命セラレタル登記事項ヲ記載スルコトヲ要ス戸籍第二二條第三項

戸籍吏カ裁判所ノ許可ヲ得テ爲ス登記(第二七條ニハ其許可ヲ得タル登記事項ヲ記載スルコトヲ要ス)以上ニ付キテハ(元)参照

戸籍吏ハ届出報告申請請求身分ニ關スル證書ノ原本又ハ裁判ニ記載シ在ル事項若クハ登記ノ許可ヲ得タル事項ヲ増減變更シテ之カ登記ヲ爲スコトヲ得ス

第二 登記ニハ前第一ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲモ記載スルコトヲ要ス(戸籍第二八條)

一 届出又ハ申請ノ受附ノ年月日但他ノ戸籍吏又ハ官廳ヨリ届書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テハ發送者ノ官職氏名發送ノ年月日及ヒ送付ヲ受ケタル年月日ヲ併記スルコトヲ要ス

(注意) 甲戸籍吏が届出を受附ケ其登記ヲ爲シタル後乙戸籍吏ニ其届書ヲ送付シ乙戸籍吏カ之ニ因リテ登記ヲ爲ス場合ニ在リテハ届出ヲ受附ケタル者ハ甲戸籍吏ノミナリ何レノ届出ハ一ノ戸籍吏ニ對シ登記ヲ請求スル行爲ニシテ二以上ノ戸籍吏ニ對シ登記ヲ請求スル行爲ニアラス隨テ届出ヲ受ケタル戸籍吏カ他ノ戸籍吏ニ届書ヲ送付ヲ爲スヘキ場合ニ在リテハ他ノ戸籍吏ハ届出ヲ受ケタルニアラスシテ届出事項ヲ記載シタル書面即チ届書ヲ送付ヲ受ケタルニ過キザレハナリ然ルニ戸籍法第二十八條ノ一ニハ届出受附ノ年月日云云トアリテ届書ノ送付ヲ受ケタル年月日ヲ記載スヘシトノ規定ナキカ故ニ乙戸籍吏カ甲戸籍吏ヨリ届書ヲ送付ヲ受ケタル場合ニ登記ヲ爲スニ方リテハ甲戸籍吏カ其届出ヲ受附ケタル年月日ハ之ヲ記載スルニキモ乙戸籍吏カ届書ヲ送付ヲ受ケタル年月日ハ之ヲ記載スルニキモトヲ要セザルモノ又如然レモ戸籍法第二十八條ノ一ニ他ノ戸籍吏ヨリ届書ヲ送付ヲ受ケタル場合ニ其發送ノ年月日ヲ記載スルニキモトヲ要ストノ規定アルヨリ觀レハ發送ノ年月日ヲ記載スルニキモトヲ要

スト爲シナカラシヨリモ重要ナル送付ヲ受ケタル年月日ハ之ヲ記載スルニキモトヲ要セズト爲シタルニ付ラザルニテ推知スルニ難カラス故ニ予ハ戸籍法第二十八條ノ一ニ届出ノ受附ノ年月日トアルハ届出ノ受附ノ年月日ト他ノ戸籍吏又ハ官廳ヨリ送付シタル届書ノ受附ノ年月日即チ届書ヲ送付ヲ受ケタル年月日トヲ包含スルモノナリト解スルヲ穩當トシ明治三十一年七月十三日司法省訓令第五號戸籍取扱手續附錄第一號書式ノ一ノ第二號ニハ(前略)右出生明治三十二年三月六日神田區へ届出同日同區戸籍吏井口清受附同月七日届書發送同自受附下アリ即チ司法省モ亦予ト同一ノ解釋ヲ採ルモノト知シテ一、既述ノ如キ場合ニ於テハ送付ノ届書ノ發送ノ年月日ハ送付書ニ記載シ在ル年月日ニ義ニテスシテ現ニ發送シタル年月日ヲ指スモノトス故ニ例ヘテ甲戸籍吏カ現ニ届書ヲ乙戸籍吏ニ發送シタル年月日ハ明治三十三年八月五日ナルモ送付書ニハ明治三十三年八月六日ヲ記載シ在ル如キ場合ニ郵票捺印等ニ據リ甲戸籍吏ノ現ニ發送シタル日カ八月五日ナルヲ知ルヲ得ルニ於テハ乙戸籍

夏ハ届書發送ノ月日ヲ八月五日ト記載セオカ  
二 報告又ハ請求ノ發送及ヒ受附ノ年月日並ニ報告者又ハ請求者ノ官職氏名但他ノ戸籍吏ヨリ報告書ノ送付ヲ要ケタル場合ニ於テハ發送者ノ官職氏名發送ノ年月日及ヒ送付ヲ受ケタル年月日ヲ併記スルコトヲ要ス

(注意) 戸籍法第二十八條ノ二ニハ報告書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於ケル規定ナシ然レトモ予ハ同條ノ一ノ規定ヨリ類推シ此場合ニ於テハ發送者ノ官職氏名等ヲ併記スヘキモノト爲スヲ適當ナリト信ス

三 身分ニ關スル證書又ハ航海日誌ノ原本ノ發送及ヒ受附ノ年月日並ニ證書又ハ航海日誌ノ複製者及ヒ發送者ノ官職氏名

四 登記ヲ命シタル裁判ノ年月日其裁判ヲ爲シタル裁判所ノ名及ヒ其裁判カ戸籍吏ニ送達セラレタル年月日即チ戸籍吏ノ側ヨリ觀ルベキハ裁判ヲ受附ケタル年月日

(注意) 戸籍法第二十八條ノ四ニハ裁判ノ送達ヲ受ケタル年月日ヲ記載スルコトヲ要ストノ規定ナシ然レトモ同條ノ一等ヨリ類推シ之ヲ記載スル

五 戸籍吏カ裁判所ノ許可ヲ得テ爲ス登記戸籍第二七條ニ在リテハ許可ノ年月日及ヒ許可書ノ送達即チ戸籍吏ノ側ヨリ觀ルベキハ受附ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

(注意) 此事ニ付キテハ戸籍法ニハ明文ナキモ同條第二十八條ノ四ヨリ類推ス

之ヲ要スルニ第一ニ掲ケタル記載ニハ其要件ハ登記スルキ事項ノ實質ニ關シ第二ニ掲ケタル要件ハ其登記ヲ爲スニ要リタル手續ヲ明瞭ナラシムル爲メ之ヲ記載セシムルモノナリ  
登記ヲ爲スニハ署名又ハ符號ヲ用キテ字畫明瞭ナルコトヲ要ス年月日及ヒ年録ヲ記スル數字ニハ一二三ノ字ヲ用クニシテ壹貳參拾ノ字ヲ用ユルコトヲ規ス(戸籍第二九條第一項第二項)  
文字ハ之ヲ改算スルコトヲ得ス若シ訂正補入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ簡孤ヲ附シ戸籍吏之ニ認印シ其削除ニ係

戸籍文字ハ尙未明カニ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存スルコトヲ要ス戸籍第二十九條第三項記  
 戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル毎ニ其文末ニ認印スルコトヲ要シ(戸籍第三十條文末ニキ  
 認印スルニ依リテ其登記ヲ了ラフ故ニ文末ニ認印ヲ爲スマテハ前ニ説明シタル  
 手續ニ從ヒ文字ヲ訂正シ挿入シ又ハ削除スルコトヲ得然レドモ且文末ニ認  
 印ヲ爲ストキハ之ニ依リテ其登記ヲ爲シ了ラフ事モナルカ故ニ縦横錯誤又卒  
 脱漏等アルコトヲ發見スルモ訂正挿入又ハ削除ヲ爲スコトヲ得ス戸籍法第四  
 十條ノ規定ニ依リ其旨ヲ届出入又ハ登記事件ノ本人ニ通知シ此等ノ者ヲシテ  
 戸籍法第四章第二十一節ノ規定ニ從ヒ身分登記變更ノ申請ヲ爲サシムルノ外  
 ナシ

(三) 欄内登記ニ關スル特別ノ手續  
 欄内登記トハ身分登記簿ノ用紙ノ野内ニ  
 爲スヘキ登記ナルコト及ヒ如何ナル種類ノ登記ハ欄内ニ之ヲ爲スヘキヤニ付  
 キテハ既ニ前(三)ニ於テ之ヲ説明シタリ以下欄内登記ニ關スル特別ノ手續ヲ説  
 明スヘキ事ニ就テハ其性質ノ別ニ於テハ後述ノ如クニ之ヲ説明スルコトヲ要ス  
 登記ヲ爲スヘキ事實カ戸籍法第四章第二節乃至第二十節ニ掲ケタル届出事件

ノ二箇以上ニ涉ルトキハ其二箇以上ノ事件ニ付キ各別ニ登記ヲ爲スコトヲ要  
 ス  
 前項ノ登記ニハ各登記ニ付キ必要ナル事項ノミヲ記載シ例之甲ノ事件ト乙ノ  
 事件トニ涉ルトキハ甲ノ事件ト乙ノ事件トニ付キ各別ニ其登記ヲ爲シ甲ノ事  
 件ノ登記ニハ届書ニ記載シ在ル其事件ニ關スル必要ナル事項ノミヲ記載シ乙  
 ノ事件ニ關スル事項ハ之ヲ記載セザラフコトヲ謂フ各登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號  
 ヲ附記スルコトヲ要ス以上戸籍第二三條ノ規定ニ從ヒ  
 (注意) 登記スルキ事實カ届出事件ノ二箇以上ニ涉ルトキハ(一)ノ事實カ(二)以  
 上ノ登記事項ニ涉ルノミナラス其(三)以上ノ登記事項ニ付キ各別ニ届出ヲ爲  
 スコトヲ要セザル場合ヲ謂フ例ハ外國ノ女ト日本ノ男トカ婚姻ヲ爲シタ  
 ルコトノ届出ノ如シ此設例ニ在リテハ外國ノ女ハ日本ノ男ト婚姻ヲ爲シタ  
 ルニ因リ日本ノ男ノ妻ト爲ルニ同時ニ日本ノ國籍ヲ取得スルニシテハ拘  
 ラズ婚姻ノ届出ト國籍取得ノ届出トヲ二箇以届出ヲ爲スコトヲ要セス單ニ  
 婚姻ノ届出但し其届書ニハ第五十七條ニ規定シテ屆出事項ヲ記載スルコト

ヲ要ス(ア)爲ストキハ此ノ箇ノ届出ニ因リ婚姻ノ登記ヲ圖籍取得ノ登記トシ  
二箇ノ登記ヲ爲スヘキモノナリ之ニ反シテ塔養子ヲ爲シタル場合ニ在リテ  
ハ婚姻ト養子縁組トハ同時ニ成立スト雖其二箇ノ事件ニ付キ各別ニ届出ヲ  
爲スコトヲ要スルカ故ニ一ノ届出ニ因リ二箇ノ登記ヲ爲スヘキ場合ニアラ  
ス

戸籍法第二十三條第一項ニ第四章第二節乃至第二十一節トアルハ第四章第  
二節乃至第二十節ノ誤ナリ何トナレハ一ノ届出文ハ申請ニ因リ戸籍法第四  
章第二節乃至第二十節ニ掲ケタル事件ノ登記ト同章第二十一節ニ掲ケタル  
身分登記變更ノ登記トヲ爲スヘキ場合モナク又一ノ申請ニ因リ同章第二十  
一節ニ掲ケタル二箇以上ノ身分登記ノ變更ノ登記ヲ爲スヘキ場合モナケレ  
ハナリ

一ノ届出ニ因リ戸籍法第四章第二節乃至第二十節ニ掲ケタル二箇以上ノ登  
記ヲ爲シタル場合ニ於テハ届出ハ一ナルモ登記ハ二以上ナリ故ニ之ヲ變更  
セント欲スルトキハ各別ノ登記ニ付キ各別ニ其變更ノ申請ヲ爲サアルヘカ  
ラ

ラス隨テ一ノ申請ニ因リテ二箇以上ノ身分登記ヲ變更スヘキ場合ナシ  
登記ハ日次ヲ逐ヒ事件受附ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲シ一事件毎ニ番號ヲ附シ用  
紙ニ空行ヲ存セス前後ノ登記ヲ接續セシムルコトヲ要ス(戸第三〇條)

(注意) 戸籍法第三十條ニハ登記ハ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外云云トアリ  
特別ノ規定アル場合トハ欄外ニ登記ヲ爲スヘキ場合ヲ指ス

本籍分明ナラザル者ノ登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍カ分明ト爲リタル旨ノ届  
出又ハ報告アリテ且ツ其者カ本籍人ナルトキハ更ニ本籍人身分登記簿ノ欄内  
ニ登記ヲ爲シ其登記及ヒ前登記ノ欄内ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要  
ス(戸第二六條第一項)

前項ノ登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍ニ付キ更ニ届出又ハ報告アリタルトキハ  
届出又ハ報告アリタルコト及ヒ其年月日ヲ前登記ノ欄外ニ記載スルヲ以テ足  
ル(戸第二六條第三項)

(四)欄外登記ニ關スル特別ノ手續 欄外登記トハ身分登記簿ノ用紙ノ野外ニ  
爲スヘキ登記ナルコト及ヒ如何ナル種類ノ登記ハ欄外ニ之ヲ爲スヘキヤニ付

於ハ既ニ(三)ニ於テ之ヲ説明シタルハ以下欄外登記ニ關スル特別ノ手續ヲ說明  
 申シテ之ヲ行ハスルニ關スル手續ハ本條ニ於テ之ヲ規定スルニ任セズ  
 登記取消ノ登記ニ取消ノ申請又ハ請求ノ目的タル原登記ノ欄外ニ之ヲ爲シ原  
 登記ヲ抹消スルコトヲ要ス(戶籍法第二四條)ニ規定スルニ任セズ  
 登記變更ノ登記ハ其目的タル登記ノ欄外ニ之ヲ爲シ且ツ其申請ノ基本タル裁  
 判ノ趣旨ニ從ヒテ原登記ヲ變更スルコトヲ要ス(戶籍法第二五條)

**注意** 登記變更ノ登記ハ戶籍法第四章第二十一節ニ依リ裁判所ノ許可ヲ得  
 申シ之カ申請ヲ爲ス場合ト同法第七十九條ニ依リ確定判決ニ基キテ之ヲ申請  
 スル場合トアリ何レモ其裁判許可又ハ確定判決ノ趣旨ニ從ヒ原登記ヲ變更  
 スルコトヲ要ス

本籍カ分明ナラサル者ノ登記ヲ爲シタル後其者ハ本籍カ分明ト爲リタル旨ハ  
 届出又ハ報告アリタル場合ニ於テ其差カ非本籍人ナルトキハ原登記ノ欄外ニ  
 實登記ヲ爲スコトヲ要ス此事ニ付キテハ(三)ノ第二參照面シテ此種ノ欄外登記  
 ヲ爲シタル後其者ノ本籍ニ付キ更ニ届出又ハ報告アリタルトキハ届出又ハ報

告アリタルコト及ヒ其年月日ヲ原登記ノ欄外ニ記載スルヲ以テ是ル(戶以上第  
 二六條)

欄外登記ハ原登記ノ欄外ノ餘白ニ之ヲ爲スルモノナリ故ニ前ニ原登記ニ  
 對スルニ以上ノ欄外登記ハ日次ヲ逐ヒ受附ノ順序ニ從ヒ相接続シテ之ヲ記載  
 スルコトヲ要セス第二以下ノ欄外登記ハ第一ノ欄外登記ヲ爲シタル餘白第一  
 ノ欄外登記ノ前方タルト後方タルト將タ上方タルト下方タルト間ハスニ之  
 ヲ記載スルコトヲ得

欄外登記ヲ爲スヘキ場合ニ於テ用紙ニ餘白ナキトキハ掛紙ヲ以テ之ニ充ツル  
 コトヲ得此場合ニ於テハ戶籍吏ノ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スコト  
 ヲ要ス(戶籍法第三二條)

**第四節 登記後ノ手續**

(一)身分登記簿ノ副本ニ謄寫スルコト  
 戶籍役場ニ於テ身分登記簿ノ正本ト副  
 本トヲ備テヘキモノニシテ其正本ハ登記夕原簿ナリ此事ニ付キテハ(三)參照頁



籍吏ハ正本ニ登記ヲ爲シタル毎ニ登記ヲ爲スト同一ノ手續ヲ依リ通漕ナク其  
 全文ヲ登記簿ノ副本ニ謄寫スルコトヲ要ス(戸第三九條第一項) 五本ノ籍  
 欄外登記ハ既ニ述ヘタル如ク後日ニ至リ前ニ爲シタル登記ノ欄外ニ之ヲ爲ス  
 (キモノ)ニシテ身分登記簿ノ副本ハ戸籍法第四十一條ノ手續ヲ終ヘタルトキ  
 之ヲ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ納付スヘキ此事ニ付キテハ(三参照)  
 モノナルカ故ニ副本ヲ地方裁判所ニ納付シタル後欄外登記ヲ爲スコトナシト  
 セス此場合ニ在リテハ副本ハ戸籍役場ニ存在セザルヲ以テ戸籍吏ハ之ニ欄外  
 登記ヲ謄寫スルコトヲ得ス戸籍吏ハ副本ニ謄寫スルニ代ヘ左ノ手續ヲ爲サテ  
 ルヘカラス

身分登記簿ノ副本ヲ地方裁判所ニ送付シタル後身分登記簿ノ正本ニ欄外登記  
 ヲ爲シタル場合ニ於テハ戸籍吏ハ通漕ナク其登記ノ原本ヲ作リ職氏名ヲ署シ  
 捺印ヲ押捺シ之ヲ地方裁判所ニ送付スルコトヲ要ス(戸第三九條第二項) 地方  
 裁判所カ右ノ送付ヲ受ケタルトキハ地方裁判所長ハ其送付ヲ受ケタル登  
 記ノ原本ヲ既ニ送付ヲ受ケタル身分登記簿ノ副本中相當登記ノ欄外ニ貼付ス

取印ヲ以テ本紙ト其貼付シタル原本ニ捺印ヲ爲スコトヲ要ス(戸第三九條第  
 三項) 又戸籍吏ハ其原本ニ捺印シタル後其原本ニ捺印シタル原本ニ捺印シタル原本  
 (又)届書等ヲ他ノ戸籍吏ニ送付スルニ付ハ其戸籍吏カ身分ニ關スル届出ヲ受ケ  
 タルトキ其他本章第一節ニ掲ケタル事由ニ因リ身分登記ヲ爲シタル場合ニ在  
 リテハ其届書又ハ其他ノ書類ヲ他ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要スルコトヲ  
 左ノ如クニ爲ス

第一 届出ニ因リテ身分登記ヲ爲シタル場合  
 (甲) 被登記者ノ一員又ハ全員ハ本籍カ一ノ家ニ在リ他家ニ移轉スヘキ事項  
 (例)ハ甲家ニ在ル丙男ト乙家ニ在ル丁女ト婚姻スルトキハ丁女ハ乙家ヲ  
 去リテ甲家ニ入ルニ關スル届出ヲ爲ス場合ニ於テ其兩家ノ本籍地カ戸籍  
 吏ノ管轄ヲ異ニシ其何レカノ戸籍吏ニ其届出ヲ爲ストキハ届書ハ正本ニ  
 本各一通ヲ作ルコトヲ要スルモノトス(戸第五三條第二項) 又其原本  
 右ノ場合ニ於テ被登記者ノ入ルヘキ家ノ本籍地ヲ管轄スル戸籍吏ニ其届  
 出ヲ爲シタルトキハ戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル後通漕ナク其届書ノ副本ヲ

戸籍法 身分登記 登記手続 登記後ノ手続

被登記者ノ舊管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要スル第三條第二項ニ

例 甲戸籍吏ノ管轄ニ屬スル丙家ニ在ル戊男ト乙戸籍吏ノ管轄ニ屬ス

ル丁家ニ在ル己女ト婚姻ヲ爲スルコトヲ以テ己女ヲ丁家ニ去リテ丙家ニ入

居ルヘク隨テ其者ノ本籍ハ乙戸籍吏ノ管轄ニ在リ申戸籍吏ノ管轄ニ轉屬ス

ルコトヲ以テ此場合ニ於テ甲戸籍吏ニ其婚姻ノ届出ヲ爲スルハ届書

正本副本各一通ヲ作り之ヲ差出スルコトヲ要ス而シテ甲戸籍吏ハ其届書

正本及ヒ副本ヲ受附ケ之ヲ登記ヲ爲シタル時ニ該管轄ノ其届書

正本ヲ乙戸籍吏ニ送付スルコトヲ要スルモノトス

例 次ニ被登記者ノ去ルヘキ家ノ本籍地ヲ管轄スル戸籍吏ニ其届出ヲ爲シタ

ルトキ舊戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞セテ其届書ヲ正本又被登記者ハ

新管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要スル第三條第二項ニ

例 前ニ掲ケタルト同ニ入場合ニ於テ乙戸籍吏ニ其婚姻ノ届出ヲ爲ス

ルニハ届書ノ正本副本各一通ヲ作り之ヲ差出スルコトヲ要シ乙戸籍吏カ其

届書正本及ヒ副本ヲ受附ケ之ヲ登記ヲ爲シタル時ニ該管轄ノ其届

書正本ヲ甲戸籍吏ニ送付スルコトヲ要スルモノトス(戸第三四條)

例 京橋區ニ屬スル甲家ノ丙男ト日本橋區ニ屬スル乙家ノ丁女ト婚姻

スルコトヲ爲ストキハ丁女ハ乙家ヲ去リテ甲家ニ入居ルコトヲ以テ此場合ニ於テ本郷區ノ戸籍

吏ハ其婚姻ノ届出ヲ爲シタル後遲滞セテ其届書ヲ正本又通副本送付作り之ヲ差出

スルコトヲ要ス而シテ本郷區ノ戸籍吏ハ其届書正本及ヒ副本ヲ受附ケ

テ之ヲ登記ヲ爲シタル時ニ該管轄ノ其届書正本ヲ京橋區ノ戸籍吏ニ

送付スルコトヲ要スルモノトス(戸第三四條)

例 京橋區ニ屬スル甲家ノ丙男ト日本橋區ニ屬スル乙家ノ丁女ト婚姻

スルコトヲ爲ストキハ丁女ハ乙家ヲ去リテ甲家ニ入居ルコトヲ以テ此場合ニ於テ本郷區ノ戸籍

吏ハ其婚姻ノ届出ヲ爲シタル後遲滞セテ其届書ヲ正本又通副本送付作り之ヲ差出

スルコトヲ要ス而シテ本郷區ノ戸籍吏ハ其届書正本及ヒ副本ヲ受附ケ

テ之ヲ登記ヲ爲シタル時ニ該管轄ノ其届書正本ヲ京橋區ノ戸籍吏ニ

送付スルコトヲ要スルモノトス(戸第三四條)

例 京橋區ニ屬スル甲家ノ丙男ト日本橋區ニ屬スル乙家ノ丁女ト婚姻

スルコトヲ爲ストキハ丁女ハ乙家ヲ去リテ甲家ニ入居ルコトヲ以テ此場合ニ於テ本郷區ノ戸籍

吏ハ其婚姻ノ届出ヲ爲シタル後遲滞セテ其届書ヲ正本又通副本送付作り之ヲ差出

スルコトヲ要ス而シテ本郷區ノ戸籍吏ハ其届書正本及ヒ副本ヲ受附ケ

テ之ヲ登記ヲ爲シタル時ニ該管轄ノ其届書正本ヲ京橋區ノ戸籍吏ニ

送付し其副本を一通ヲ日本籍區ノ戸籍吏ニ送付せしめ其受取書ニ  
 (丙) 被登記者ノ本籍ヲ移轉スル事要例ハハ出生先疎死亡隱居等ニ關シ  
 ル届出ヲ被登記者自本籍地ニ戸籍ヲ管轄地外ニ於テ發シトキハ原籍地取  
 本副本各一通ヲ原籍地トシテ要ス(戸第五三條第一項) 又ハ本籍地ノ可  
 右ノ場合ニ於テハ其届出ヲ受ケタル戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル後運漕ナク  
 原籍ノ正本ヲ被登記者ノ本籍地ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要スルモノト  
 ス(戸第三五條)

例 趙町區ニ本籍アリ有スル者ノ死亡ヲ深川區ノ戸籍吏ニ届出アルニ  
 届書ハ正本一通副本一通ヲ作リ之ヲ差出スコトヲ要ス而シテ深川區ノ  
 戸籍吏カ其届出ニ因リ登記ヲ爲シタルトキハ運漕ナク原籍ノ副本ヲ趙  
 町區ノ戸籍吏ニ送付スルヘカラヌ

第二 本章第一節ニ掲ケタル届出以外ノ事由ニ因リ身分登記ヲ爲シタル  
 場合ニ關シ一員又ハ全員ノ本籍カ一ノ戸籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戸籍吏  
 (甲) 被登記者ノ一員又ハ全員ノ本籍カ一ノ戸籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戸籍吏

ノ管轄ニ轉属スヘキ事項ニ關シ其何レカノ戸籍吏カ届出以外ノ事由例ヘ  
 ハ外務大臣ヨリ身分ニ關スル證書ノ原本ノ送付ヲ受ケタルトキニ因リ登  
 記ヲ爲シタルトキハ其戸籍吏ハ受附ケタル書面ノ原本一通ヲ作ルコトヲ  
 要ス(戸第三六條第二項)

右ノ場合ニ於テ届出以外ノ事由ニ因リ登記ヲ爲シタル戸籍吏カ被登記者  
 ノ舊管轄ノ戸籍吏ナルトキハ其受附ケタル書面ヲ新管轄ノ戸籍吏ニ送付  
 スルコトヲ要シ又登記ヲ爲シタル戸籍吏カ被登記者ノ新管轄ノ戸籍吏ナ  
 ルトキハ其受附ケタル書面ノ原本ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要  
 ス(戸第三六條ニ依リ戸第三十三條準用)

(乙) 被登記者ノ一員又ハ全員ノ本籍カ一ノ戸籍吏ヨリ他ノ戸籍吏ノ管轄  
 ニ轉属スヘキ事項ニ關シ第三ノ戸籍吏カ届出以外ノ事由ニ因リテ登記ヲ  
 爲シタルトキハ其戸籍吏ハ受附ケタル書面ノ原本二通ヲ作リ(戸第三六條  
 第二項)其一通ハ被登記者ノ舊管轄ノ戸籍吏ニ之ヲ送付シ受附ケタル書面  
 ハ新管轄ノ戸籍吏ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス(戸第三六條ニ依リ戸第三

十四條準用

(丙) 被登記者ノ本籍カ移轉セタル事項ニ關シ其者ノ本籍地ヲ管轄セタル戸籍吏カ届出以外ノ事由ニ因リテ登記ヲ爲シタルトキハ其戸籍吏ハ受附ケタル書面ノ登記一通ヲ作り受附ケタル書面ハ被登記者ノ管轄戸籍吏ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス

(注意) 右ノ場合ニ付キテハ戸籍法ニハ第三十六條第二項末段ニ届出以外ノ事由ニ因リ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ被登記者ノ本籍カ戸籍吏ノ管轄ニ屬セザルトキ亦同シトアリテ受附ケタル書面ノ原本ヲ作ルヘキコトヲ規定シタルノミニテ受附ケタル書面ハ之ヲ管轄戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ストノ規定ナシ恐クハ第三十六條第一項ニハ第三十三條第三十四條及ヒ第三十五條云云ト規定スヘキヲ誤リテ第三十五條ノ文字ヲ漏脱シタルモノナラシ然レトモ第三十六條ハ届出以外ノ事由ニ因リ登記ヲ爲シタル場合ニ於ケル受附ケタル書面又ハ其原本ノ送付ニ關スル規定ニシテ同條中ニ第二項末段ノ規定アル以上ハ其規定ノ趣旨ハ受附

ケタル書面ノ原本ヲ作ルコトヲ命ジタルトキハ受附ケタル書面ノ原本ハ被登記者ノ管轄戸籍吏ニ之ヲ送付スルコトヲ命ジタルモノナラシト解釋スルヲ相當トス尙(元)ノ第四ヲ參照スヘシ

以上ニ説明シタル手續ニ依リ他ノ戸籍吏ヨリ届書等ヲ送付ヲ受ケタル戸籍吏ニ其届書等ニ基キ更ニ登記ヲ爲スコトヲ要スルモノトス尙(元)ヲ參照スヘシ以上ニ説明シタル手續ニ依リ他ノ戸籍吏ヨリ届書等ヲ送付スル場合ナシカ登記ヲ爲シタル後更ニ第三ノ戸籍吏ニ届書等ヲ送付スル場合ナシ(宅)届書其他ノ書類ノ整理及ヒ保存ノ戸籍吏ハ身分登記ヲ爲シタル後其身分登記ニ關スル届書其他ノ書類ニ登記ノ番號及ヒ登記ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ登記簿ノ區別ニ從ヒ各別ニ之ヲ編輯シ且ツ之ニ目録ヲ附スルコトヲ要ス(戸第三七條)

(注意) (イ) 其他ノ書類トハ報告身分ニ關スル證書ノ原本ノ如キモノヲ謂フ戸籍法第三十七條ニハ登記ニ關シ受附ケタル書類トアリ故ニ法文ノ正面ヨリ言フトキハ届出以外ノ事由ニ因リ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其役場ニ留

ヲ置ク爲タニ作リタル受附ケタル書面ノ原本受附ケタル書面ノ原本ヲ作リ  
 受附ケタル書面ハ之ヲ他ノ戸籍吏ニ送付スヘキ場合アルコトハ前(三)ノ第二  
 ニ於テ説明シタリハ之ヲ包含セナルカ如シ然レトモ受附ケタル書面ノ原本  
 ハ既ニ述ヘタル如ク届書ノ副本ニ相當スルモノナルカ故ニ之ヲモ包含セシ  
 マタルモノト解スルヲ穩當トス

(四) 身分登記簿ハ一年毎ニ之ヲ編製スヘキモノナルカ故ニ戸第八條登記ノ  
 番號モ亦一年毎ニ更新スヘキモノナリ

(五) 一箇ノ届出ニ因リ二箇以上ノ登記ヲ爲シタルトキ(此事ニ付キテハ(三)參  
 照)ハ受附番號(受附番號ニ付キテハ(六)參照)ハ一ナルモ登記番號ハ各登記ニ付  
 キ各別ニ之ヲ附セナルヘカラス

(六) 他ノ戸籍吏ニ送付スヘキ届書ノ正本副本其他ノ書類ニ付キテハ本文ノ  
 手續ヲ爲スヘキ限ニ在ラス

以上ニ掲ケタル届書其他ノ書類ハ登記ヲ爲シタル後一箇月毎ニ通漕ナク之ヲ  
 監督區裁判所ニ送付スルコトヲ要シ監督區裁判所ハ之ヲ保存スルコトヲ要ス

### 供託法

第一章 供託ノ法律關係

法學士 塚田達二 郎 講述

#### 第一款 供託ノ定義

供託トハ法令ノ規定ニ依リテ供託ノ原因ヲ有スル者カ金錢又ハ有價證券其他  
 ノ動産ヲ供託所ノ保管ニ付スルコトヲ謂フ之ヲ分析シテ説明スレハ左ノ如シ

第一 供託ハ供託ヲ爲シ得ヘキ者ノ單獨行爲ナリ

供託ノ原因及供託ヲ爲シ得ヘキ者ハ法令ニ於テ之ヲ限定セルカ故ニ其原因  
 ヲ有シ其原因ニ依リテ供託ヲ爲シ得ヘキ者ニ非ラレハ供託ヲ爲スコトヲ得  
 ス例ハ辨濟ノ爲メニスル供託ハ辨濟者ニ非ラレハ之ヲ爲スコトヲ得サルカ

如キ抵當權ヲ排除スル爲メノ供託ハ抵當不動産ニ付キ所有權地上權又ハ永小作權ヲ取得シタル者ニ限リテ之ヲ爲スコトヲ得ヘキカ如シ(民三七八四九四條)テ供託ハ寄託ニ非ス寄託ハ當事者ノ一方カ相手方ノ爲メニ或物ヲ保管スルコトヲ目的トスル契約ナリト雖モ供託ハ法令ノ規定ニ依リテ供託ヲ爲シ得ヘキ者ノ單獨行爲ニシテ供託物ヲ保管スヘキ相手方ノ承諾ヲ必要トセス蓋シ供託所ハ供託ノ意思表示ニ對シ供託ノ適法ナルキ供託ニ關スル法定ノ要件ヲ具備スルヤ否ヲ審査シテ供託物ノ受領ヲ許否スルコトヲ得ヘシト雖モ是レ供託ノ意思表示ニ對スル承諾又ハ拒絕ニ非ス何トナレハ供託所ハ供託ノ適法ニシテ且ツ法定ノ要件ヲ具備スルコトヲ認ムルトキハ供託物ヲ保管スヘキ義務ヲ負フモノニシテ自己ノ任意ヲ以テ之カ保管ヲ爲スト否トヲ決定スルコトヲ得サレハナリ要スルニ供託ヲ爲サントスル者ニ於テ供託所ニ對シ供託ノ意思表示ヲ爲シタルトキハ其意思表示カ法定ノ要件ヲ具備スル限リハ供託所ハ其目的物ヲ保管スヘキ義務ヲ負擔ス但シ供託ノ目的物カ金錢又ハ有價證券ニ非サル物品ナルトキハ之ヲ保管スヘキ者ノ營業ノ

部類ニ屬セタル物品又ハ保管シ得サル多額ノ數量ニ付テハ供託所ハ之ヲ保管スヘキ義務ヲ負フコトナシ(供託法第五)

第二供託ハ金錢又ハ有價證券其他ノ動産ヲ供託所ノ保管ニ付スルコトヲ云フ(第六)又ハ供託ニ付スルモノハ其種類ニ依リテ爲スヘキ供託ノ目的物ハ動産又ハ有價證券ニ限定セラルルモノニシテ不動産ヲ以テ其目的物ト爲スコトヲ得ス何トナレハ供託法ハ有價證券又ハ動産ニ關スル供託ノミヲ規定スレハナリ(同法第一第五)茲ニ所謂動産トハ民法ニ規定セル動産ト同一ニシテ土地及其定著物ニ非サル有體物ヲ謂ヒ有價證券トハ輾轉流通スヘキ性質ヲ有スル證券ニシテ證券ニ表示セラルル債利ヲ行使スルニ付キ其證券ノ占有ヲ必要トスルモノヲ謂フ例ハ國債證券地方債證券市町村債證券會社ノ株券社債券大藏省證券爲替手形約束手形倉荷證券等ノ如シ供託所トハ法令ニ依リテ規定セラレタル供託物ヲ保管スヘキ機關ニシテ金錢又ハ有價證券ニ付テハ金庫ヲ以テ供託所トシ金錢又ハ有價證券ニ非サル物品ニ付テハ司法大臣ノ指定シタル倉庫營業者トス



金庫ハ、開庫ニ於テ保管出納スル現金ヲ取扱フ機關ニシテ大藏大臣ノ管理ニ屬シ中央金庫、本金庫、支金庫ノ三種ヨリ成ル而シテ金庫ノ現金ノ保管出納ハ日本銀行ニ於テ之ヲ取扱フモノトス(金庫規則第二、第六)。

第三、供託ハ法令ニ於テ供託ヲ爲シ得ヘキコトヲ認ムル場合ニ限リテ之ヲ爲スコトヲ得ヘキ行爲ナリ。

供託ハ法律又ハ命令ニ於テ特ニ供託ヲ爲スコトヲ認許スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ザルモノナルヲ以テ供託ヲ爲サントスル者ハ必ス供託ノ原因及供託ヲ認許セル法令ノ條項ヲ指示セザルヘカラス。現行法令中供託ヲ認許セル條項ヲ舉タルハ民法第三六七、第三七八、第三九四、第四六一、第四九四、第九七七、第五七七、第五七八、商法第一六三、第一七八、第二三四、第一八七、第二八一、第二八六、第二八九、第二九〇、第三一八、第三四七、第三五一、第三三八一、第四七四、第四七七、第四八〇、第四八五、第五〇七、第五二九、第一〇二〇、民事訴訟法第七〇、第八八、第五〇〇、第五〇三、第五〇五、第五一二、第五二二、第五四七、第五四九、第五六五、第五九三、第六〇七、第六二一、第六三〇、第六三九、第六五六、第六五七、第六九九、第

### 人事訴訟手續法

人事訴訟手續法ハ、婚姻事件、親子縁組事件、親子關係事件、廢除事件、廢居事件、禁治産、禁治産及ヒ失踪ニ關スル訴訟手續ヲ總稱シ又人事訴訟手續法ハ、該訴訟手續ニ關スル法規ノ全體ヲ總稱ス而シテ該手續ハ督促手續及ヒ證書訴訟爲替訴訟手續等ト同シク特別訴訟手續ノ一種ニシテ又該手續ニ關スル法規ハ、獨逸民事訴訟法ニ於ケルカ如ク民事訴訟法中ノ一編ト爲ヌヲ理論上正當トス我國ニ於テ人事訴訟手續ニ關スル法規ヲ民事訴訟法中ニ規定セヌシテ單行獨立ノ一法律ト爲シタルハ立法上ノ便宜ニ基キタルモノニシテ民事訴訟法ニ屬ス

### 緒言

人事訴訟手續ハ、婚姻事件、親子縁組事件、親子關係事件、廢除事件、廢居事件、禁治産、禁治産及ヒ失踪ニ關スル訴訟手續ヲ總稱シ又人事訴訟手續法ハ、該訴訟手續ニ關スル法規ノ全體ヲ總稱ス而シテ該手續ハ督促手續及ヒ證書訴訟爲替訴訟手續等ト同シク特別訴訟手續ノ一種ニシテ又該手續ニ關スル法規ハ、獨逸民事訴訟法ニ於ケルカ如ク民事訴訟法中ノ一編ト爲ヌヲ理論上正當トス我國ニ於テ人事訴訟手續ニ關スル法規ヲ民事訴訟法中ニ規定セヌシテ單行獨立ノ一法律ト爲シタルハ立法上ノ便宜ニ基キタルモノニシテ民事訴訟法ニ屬ス

ナルカ故ヒテラコトニ基テ其ノ所ナリ(舊民法中人學ニ關シテ)其ノ部  
財產ニ關スル部分トシテ其成立期ヲ異ニシタルヲ以テ當時人事訴訟手續ニ關  
ル法規ヲ包含スル民事訴訟法ヲ公布スル立法上其價ヲ得タルモノニアラ  
ズナリ)

### 第一章 婚姻事件ニ關スル手續

(一) 婚姻事件ノ意義及ヒ手續ノ特質 婚姻事件トハ婚姻ノ無效若クハ取消  
婚又ハ夫婦ノ同居ヲ目的トスル訴訟事件ヲ總稱ス(第一條民法第七七八條以下  
第八一三條以下第七八九條)而シテ婚姻事件ハ一ノ民事訴訟事件タルカ故ニ民  
事訴訟法ニ規定シタル通常民事訴訟手續ヲ適用セラルルヤ當然ナリ然レトモ  
婚姻ハ社會的生活上必要ナル制度アルヲ以テ國家ハ婚姻ニ關スル各訴訟ヲ結  
果ニ付キ公益上少カラサル關係ヲ有ス而シテ一旦有效ニ成立シタル婚姻ハ當  
事者ノ自由處分ニ因リテ容易ニ解クコトヲ得セシメヌ又婚姻結合ノ無効ナル  
ヲ明白ナラシムルハ公益タリ是ヲ以テ國家ハ婚姻事件ニ關シテ特別ノ手續ヲ設

ケ該手續ニ關レタル限度ニ於テ通常民事訴訟手續ノ適用アルコトト爲シタ  
リ其特別手續ノ概略ヲ一言スレバ國家ハ婚姻事件ヲ以テ通常民事訴訟事件ニ  
關スル手續ノ原則トシテ認メタル當事者訴訟專行主義ヲ制限シテ職權訴訟專  
行主義ヲ是認シ婚姻ノ取消離婚及ヒ夫婦ノ同居ヲ目的トスル訴訟ニ於テハ裁  
判所アリテ真正ナル事情ニ反シ當事者ノ行動ニ基キテ婚姻ノ維持若クハ夫婦  
ノ同居拒絕ノ目的ニ添ハナル裁判ヲ爲スコトヲ得セシメヌ反テ婚姻ノ維持若  
クハ夫婦ノ同居維持ノ目的ノ爲メニ職權ヲ以テ適當ノ調査ヲ爲スベキ旨ヲ命  
ジ又婚姻無効ノ訴訟ニ於テハ裁判所アリテ當事者ノ行動ニ拘ラス職權ヲ以テ  
婚姻ノ無効原因ノ存否ヲ調査シ其結果トシテ職權ハレタル事情ニ從ヒ適當ノ裁  
判ヲ爲サシム其他檢事アリテ國家ノ代表者トシテ意見ヲ陳述シ婚姻事件ニ關  
シテ其助ヲ爲サシム且ツ事情ニ從ヒ事件ノ當事者ヲシテ其ノ  
(二) 管轄裁判所及ヒ檢事ノ其助 婚姻事件ハ夫カ内國人タルト外國人タルト  
ノ間ニ又原告タル場合ト被告タル場合トヲ問ハズ普通裁判籍ヲ有スル地又  
一黨死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬スルヲ原則トシ該

普通裁判籍ハ内國ニ住所ナキトキ又ハ内國ノ住所ノ知レタルトキハ居所ニ依  
 リ居所ナキトキ又ハ居所ノ知レタルトキハ最後ノ住所ニ依リテ定マリ最後ノ  
 住所ナキトキ又ハ其住所ノ知レタルトキハ民法省令ヲ以テ指定シタル住所地  
 ニ依リ定マルモノナリ第一條此ノ如ク事物ノ管轄トシテ地方裁判所カ婚姻事  
 件ニ付キ管轄ヲ有スルハ裁判所構成法第二十六條ノ適用ニシテ又土地ノ管轄  
 トシテ夫ノ普通裁判籍所在地ヲ管轄スル裁判所カ婚姻事件ニ付キ管轄ヲ有ス  
 ルハ婦カ通常夫ト異ナル住所ヲ有スルコトナキト民事訴訟法カ裁判籍ニ關シ  
 原則トシテ剛籍主義ヲ捨テ屬地主義ヲ採リタルトニ依ル而シテ法律カ普通裁  
 判籍ヲ擴張シタルハ婚姻事件ニ付キ裁判籍ナキカ如キ缺點ヲ防止シタルニ外  
 ナラス民事訴訟法第一〇條第一三條民法第二一條第二三條然レトモ例外トシ  
 テ縁組事件ニ附帯シテ婚姻ノ取消又ハ離婚ノ請求ヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス  
 (第一條蓋シ然ラズンハ附帯訴訟ヲ許スノ法意ニ反スルニ至レハナリ)第二四條  
 檢事ハ國家ノ代表者トシテ公益ノ爲メニ訴訟事件ニ付キ意見ヲ陳述シ又ハ當  
 事者ト爲ル機關ナリ故ニ事件ノ專屬シタル裁判所ニ附屬セラレタル檢事局ノ

檢事ハ婚姻事件ニ關シテ亦此ノ者ノ行動ニ依リテ其助ヲ爲ス即チ(四)檢事ハ總  
 タノ婚姻事件ノ辯論ニ立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ要シ第五條第一項要ス一ト  
 ハ檢事ノ職責タルコトヲ示スニ止マリ婚姻事件ニ付キ檢事カ斯ル其助ヲ爲サ  
 ラルトキハ違法ト爲ル旨ヲ示スモノニナラズ獨逸ニ於テハ民事訴訟法案ニ  
 於テ檢事ノ其助ヲ職務ト爲シタルトモ確定法文ニ於テ之ヲ職權ト爲シタリ隨  
 ハ受託判事ノ審問ニ立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ得第五條第二項得ハ檢事ノ  
 自由意見ニ委スル法意ヲ示ス此ノ如ク檢事ハ辯論若クハ審問ニ立會ヒテ意見  
 ヲ述フル職權アルカ故ニ裁判所並ニ裁判所書記ハ職權ヲ以テ辯論若クハ審問  
 ニ關スル總テノ期日(言渡期日ヲモ包含ス)ヲ適當ノ方法ヲ以テ檢事ニ通知セテ  
 ルヘカラス(檢事カ前ニ開始シタル辯論期日ニ立會ハサル場合ニ於テ然リ若シ  
 斯ル通知ナキトキハ職權ヲ以テ延期シ又斯ル通知ヲ爲サスシテ裁判ヲ爲シタ  
 ルトキハ該裁判ニハ檢事ノ其助ニ依リ他ノ結果ヲ見ルニ至ルトキ例ヘハ通知  
 ヲ爲ササルニ依リ檢事ノ知ラサル事實及ヒ證據方法ヲ知ラズシテ裁判シタル

方 録キ場合ニ於テ法律ニ違背シテ申立ル者ハ其訴ヲ却テ得民  
 事訴訟法第四三條第四項檢事ハ唯頭辯論ニ於テ其意見  
 陳述スルコトヲ得書面ヲ裁判所ニ提出スルニ代テ然レドモ又檢事ハ申  
 立ハ書面ニ基クコトヲ要セス(民事訴訟法第二三條)唯調書ニ之ヲ記載スルヲ  
 以テ足ル但シ檢事ヨリ申立ヲ記載シタル書面ヲ送付シ調書ニ添付スルコトヲ  
 妨ケス(民法第一三〇條)立會ヒタル檢事ノ氏名ハ其權限ヲ有スル者タルコトヲ  
 明カニスルカ爲メニ調書ニ記載スル(第五條第三項)ハ調示の規定ナリ(四)檢  
 事ハ原告トシテ婚姻ノ取消ヲ目的トスル訴ヲ提起スルコトヲ得民法第七八〇  
 條又婚姻ノ無効又ハ取消ノ訴ニ於テ相手方タルヘキ者カ死亡シタル後ニ於テ  
 相手方タルコトアリ(第二條第三項)其他檢事ハ當事者ト爲ラザルトキト雖モ婚  
 姻ヲ維持スル爲メ即チ婚姻ノ無効取消及ヒ離婚ノ訴ヲ却下シ若クハ夫婦ノ同  
 居ヲ命スル判決ヲ爲サシムルカ爲メニ職權ヲ以テ調査シタル事實及ヒ證據方  
 法ヲ提出スルコトヲ得(第六條)是レ公益ノ爲メニ檢事ヲシテ婚姻ノ保護者タラ  
 シムルノ法意ナリ檢事ノ提出シタル事實及ヒ證據方法カ當事者ニ對シ雖モ書

面ヲ以テ通知セラレナラザレバ當事者ハ辯論ノ延期ヲ申立ツルコトヲ得民  
 事訴訟法第二〇條又裁判所ハ該事實ニ付キ當事者ヲ訪問スルコトヲ得第二  
 二條但シ檢事カ提出シタル事實ノ重要ナルキ文ハ證據方法ニ付キ取調ヲ爲ス  
 (キヤ)否キハ裁判所ノ判斷スル所ナルキ當ラズ(第六條)又民事訴訟法  
 (三) 訟訴能力及ヒ訴 未成年者其他ノ無能力者ハ婚姻事件ニ於テハ訴訟行爲  
 能力ヲ有シ法定代理人保佐人又ハ夫ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス(第三條第一項)  
 是レ婚姻ハ其性質上當事者ノ一身ニ專屬スルモノニシテ又夫婦ノ意思ニ反シ  
 テ同意ヲ濫用スルノ虞ケレバナリ然レドモ無能力者ハ事實上婚姻事件ニ關ス  
 ル訴訟行爲ヲ爲スニ不適當ナルコトヲ以テ受訴裁判所ノ裁判長ハ申立ニ  
 因リ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任スルコトヲ要シ又無能力者カ申立ヲ爲サザル  
 コトト雖モ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任スルコトヲ命シ又ハ職權ヲ以テ其選任  
 ヲ爲ストトシ特裁判長カ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任シタル場合ニ於テ其意  
 見ヲ以テ定ムルニ適當ナリ(辯護士法第六條)又申立コトヲ得第三條但シ禁治  
 產者ハ他ノ無能力者ト異ニ其ハ親屬ハ之ヲ代メテ訴訟行爲ヲ爲ス

夫其得たる利益を以て民法第百九十八條夫婦の一方が禁治産者たる場合、其後  
 見人又ハ其後見監督人禁治産者ハ配偶者ト見人ナレバ場合ニ於テ利益相反  
 ナルヲ以テ後見監督人ト被後見人ト代表スルニ當ルヲ以テ民法第九一五條ヲ觀  
 族會ノ同意ヲ得テ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ルニ第四條離婚ノ訴ニ限定  
 シ婚姻ノ無効取消又ハ同居ノ訴ヲ除外シタルニ蓋シ訴訟ニ專屬的性質ヲ有ス  
 ト認メタルニ外ナラズ(獨逸民事訴訟法第六百十二條第二項ハ離婚ノ訴ノ外向  
 無取消ノ訴ヲ法定代理人ニ依リテ提起スルコトヲ得セシメタルヲ禁治産者  
 繼續中ハ同居ノ訴ノ提起アルコトナシト知ルヘシニ依リテ夫ハ其後見監督人  
 國家ハ公益上婚姻事件ノ増加ヲ防止シテ婚姻訴訟ニ於テ其當時提起スルコ  
 トヲ得ヘキ總テノ婚姻事件ニ屬スル訴ヲ消盡シレムルコトヲ欲シタリ故ニ(1)  
 婚姻ノ無効ノ訴其取消ノ訴離婚ノ訴及ヒ同居ノ訴ハ其目的ヲ異ニシ且ツ其事  
 實上ノ前提要件ヲ異ニスト雖モ之ヲ合併シ又ハ反訴トシテ之ヲ提起スルコト  
 ヲ得(第七條第一項但シ反訴ハ本訴ト同種ナルト否トノ區別ヲ問ハス)然レトモ  
 扶養ノ請求前示ノ訴ノ原因タル事實ニ因リテ生シタル損害賠償ノ請求及ヒ民

雜報

○特別法講義錄 本講義錄ハ本校發行ノ普通科及ヒ高等科講義錄ノ如ク各  
 講師ノ口述ニ係ル講義ヲ筆記又ハ速記シタルモノト異ニシテ總テ擔任講師ノ  
 親シク起草セラルル所ナルヲ以テ其準備ノ爲メ發行ヲ遅延スルノ已ムコトヲ  
 得ナリシハ夙ニ本科ニ入學セラレタル數百ノ校外生諸君ニ對シ深ク謝セナル  
 コトヲ得ス今ヤ滿都ノ櫻花將ニ東風ニ笑ハントスル時ニ際リ茲ニ第一號ヲ  
 發刊セリ蓋シ本講義錄ノ實質及ヒ其價値ノ如キハ講歩ノ進ムニ從ヒテ自ラ知  
 ルコトヲ得ヘク敢テ余輩ノ贅言ヲ要セスト雖モ本講義錄所載ノ法規ノ如キハ  
 司法官辯護士執達吏公證人等平常法律事務ニ從事スル人ヲ始トシ府縣都市町  
 村ノ吏員等其職務上直接ニ研究ノ必要ヲ感スヘキハ勿論ナルノミナラス一般  
 人ニ於テモ此等ノ法規ヲ知ルコトノ必要ナルコトハ多言ヲ要セスレバ明カナ  
 リ然ルニ法律學ノ進歩セルコト今日ノ如クナル時ニ方リ此等法規研究ノ便  
 ヲ缺クコトハ本校ノ頗ル遺憾トセシ所ナリ是レ本校カ率先シテ責任ニ當ラレ

トスル所以ニシテ亦本校カ國家社會ヲ爲メニ盡瘁セル所ノ一表彰ニ外ナラズ  
ルナリ今左ニ本講義錄所載科目及ヒ擔任講師ヲ掲ケン

唐驛郡市町村制

文部省參事官 法學士 松浦鐵次郎

租稅法

大藏省書記官 法學士 若槻禮次郎

戶籍法

東京地方裁判所判事 法學士 島田鐵吉

不動產登記法

東京地方裁判所判事 法學士 鈴木英太郎

供託法

大藏省參事官 法學士 塚田逸二郎

非訟事件手續法

東京地方裁判所判事 法學士 横田五郎

人事訴訟手續法及ヒ公證人規則

東京控訴院判事 法學士 松岡義正

競賣法

東京區裁判所判事 法學士 香孫子 勝

特許意匠商標法

農商務省參事官 法學士 杉本貞治郎

著作權法

內務省參事官 法學博士 水野鍊太郎

執達吏規則

京都帝國大學教授 法學博士 仁井田 益太郎

○合名會社ノ支店ト營業稅附加稅 營業稅法第十五條第一項列記ノ營業

爲ス者ニ對シテハ其各店舗其他ノ營業場毎ニ營業稅ヲ課シ同條第一項其他ノ  
營業ニシテ店舗其他ノ營業所カ内國ニ數箇所アルトキハ(1)其資本ヲ區分シタ  
ルトキハ各別ニ營業稅ヲ課シ(2)其資本ヲ區分セザルトキハ合算シテ之ヲ課ス  
ルモノトス同條第二項今或合名會社カ其支店ノ營業稅ヲ本店所在地ニ於テ納付  
シ居ル場合ニ其支店地ニ於テ營業稅附加村稅ヲ課シタルヲ不當シ其取消ヲ行  
政裁判所ニ訴出テタル事實ニ對シ同裁判所ハ其請求ヲ理由ナシトシ説明シテ  
曰ク原告ニ於テ原告會社ハ本支店間ニ資本ヲ區分セザルヲ以テ營業稅法第十  
五條第二項ニ依リ本支店ノ營業稅ヲ合算シ本店ニ於テ納付スルカ故ニ國稅タ  
ル營業稅ノ所在ハ本店所在地ナリト云フト雖該條ノ規定ハ國稅ヲ徵收スル便  
宜法ニ過キテレハ他ニ法令ノ規定アラザル限リ之ノミヲ以テ營業稅ノ所在  
ハ本店所在地ナリト謂フヲ得ヌ又原告ハ傳法村ハ營業稅所在地ニ在ラザルヲ  
以テ本件ノ課稅ハ營業稅ノ附加稅ニ非スシテ營業稅其モトニ課シタルモノナリ  
ト謂ハザルヘカラスト主張スルモ原告ハ傳法村ニ於テ支店ヲ有シ綿絲紡績業  
ヲ營ムヲ以テ其營業ニ對シ國稅ヲ納ムヘキ義務アルコト疑オシ唯同村ニ於テ



之ヲ納メ合算シテ本店所在地ニ賦テ納付シタル事實ナリト雖其納付ハ前  
 述ノ如ク徵稅上ノ便宜法ニ依リタルニ過ルナレハ原告ハ傳法村ニ於ケル營業  
 對シ國稅ヲ納付セス隨テ同村ハ營業稅ノ所在地ニ非スト謂フヲ得ス然レハ  
 本件ノ課稅ハ傳法村ニ於ケル原告ノ營業ニ對シ國稅ヲ附加シテ原告ノ營  
 業ニ對シ課稅シタルモノニ非ズ故ニ原告ハ附加稅ニ非ストノ理由ヲ以テ本件  
 ノ課稅ヲ拒ムコトヲ得ヌ(行政裁判ニ關スル時三十五年第三百六十二年三月四日第一  
 號官署)

○兄弟姉妹 一、父母ヲ同フスル者ノ子ニ、數人ノ入夫ヲ爲シ又ハ數人ノ後  
 妻ヲ娶リタル場合異父又ハ異母ナルモ其子ハ兄弟タルヘシ三父ノ知レタル私  
 生子間四、入夫カ他家ニ在リタル際ノ子ヲ入籍セシメタル者ト入夫後ハ嫡出子  
 間五、私生子ヲ有スル女戶主カ入夫婚姻ヲナシタル後ニ生シタル嫡出子ト私生  
 子間六、甲家ニ嫁シタル際ノ出生子ト乙家ニ嫁シタル際ノ出生子間ハ總テ兄弟  
 ト稱スルコトヲ得ルカトノ同ニ對シ司法省民刑局長ハ總テ兄弟姉妹ノ關係ヲ  
 生ストト回答セリ(刑部省同前明治三十五年七月十一日一月第十二日官署第七三四號)



明治三十六年三月卅一日印刷  
明治三十六年四月一日發行  
明治三十八年三月九日再版  
(定價金貳拾錢)

印刷所  
東京市牛込區牛込北町十番地  
秋原敬之

印刷所  
東京市牛込區矢來町三番地  
小宮山信好

印刷所  
東京市芝區西ノ久保明善町十一番地  
金子活版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所  
司法省  
指定  
**法政大學**

(電話番町百七十四番)

(明治二十二年十二月九日內務省認可)

(明治二十五年十一月四日第三號郵便法認可 每月廿一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、廿一、廿二、廿三、廿四、廿五、廿六、廿七、廿八、廿九、三十日發行)